

法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-10-06

和仏法律学校講義録

田代, 律雄 / 田中, 達 / 秋山, 雅之介 / 鈴木, 英太郎 /
梅, 謙次郎

(出版者 / Publisher)

和仏法律學校

(巻 / Volume)

8

(号 / Number)

高等科

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

61

(発行年 / Year)

1903-05-02

○ 0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3

(明治三十六年十一月四日第三種郵便物認可 每月廿一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、廿一、廿二、廿三、廿四、廿五、廿六、廿七、廿八、廿九、三十、廿九日三十日行)

明治三十六年五月二日發行

三十六年度 高等科ノ八

和佛法律學子找講義錄

第四百第

和佛法律學校

高等科第八號目次

民 法

○先取特權ニ付フノ講演.....法學博士 梅 謙次郎

○詐欺及ヒ強迫ニ關スル推問.....法學博士 梅 謙次郎

○民法第二百九十九條ニ就クノ推問.....法學博士 梅 謙次郎

○民法第二百九十五條ニ就クノ推問.....法學士 田代 錦雄

○胎兒ト法定代理人、無能力者ノ法律行為ノ效力及ヒ法律行為ト訴訟行為トノ區別ニ付フノ講演.....法學士 始木英太郎

圖書公法

○審裁手段ノ背信行為ニ關スル講演.....法學士 秋山雅之介

○鑑定法(自九三頁至一二四頁).....法學士 秋山雅之介

報 告

○最近判例要旨鑑定法(五大法律學會合議會大討論會)

本號ハ先月二十日ニ發行スヘキノ處印刷上ノ

都合ニ因リ六月二號下クタゞ諸君請フ故也。

田 中 遵

090
1903
4-8

大正の後ハセトモテセキヨリヤマニシテ御多幸を蒙る事無く
イニシエーション先取特權ニ付テノ講演 茂エハアノヨリ其音調入體ニ置キテモハ
草野蘭之藤吉氏ハテモテク名セキ異セテ其實儀ニ同ニテハ天太久翁ニ露見
シテ諸友を留めテハ安て其間ハ人質事件學博士土梅司馬ハ識者豈少耶
又伊勢以入我草野蘭之藤吉ハ甚ニ靈感起ニ致テ大半之ニテ其事主ニ質問
先取特權ハ我民法ニ於テノモノ物權ト爲テ居ケルノル舊民法只於財物を取テ
カオノハ爾開西民法ニ於テモ其ウダアル併シ是不異馬法ニ於テハ物權然ハ九
カジニノノ債權ノ效力ニ堪ゼナカツク今日ダル先張用ニテ主權ヲ守テ居ニ立法
國ニシカラハ例ハバ獨逸論ハ勿論ハ國產法ノ規定トシテ存然ナ居ル然而國產
之場合ニ於テ先取特權者ハ他者債權者ハ先テ之解消ニ至ルト云々然此又
實為テ居利尤モ獨逸ノ國產法ハ無承知無モ知其マタハメ廣々一概而過ズ
セシマヌラノ我弟ニ於テ相ガ如之商人ニ結婚ナル事人甚計ナキ氣體ト現行法無就
大寫未見所大破産及セ家資分數ヲ併セタ其身ノ資相當其財在在アハ萬物故

破産法又規定前項の居留の事由は該モ參クノ場合ニ於ける當我民法之ノ特權並シ
タフト居リ者異ハ或オ併シ物權而未タ結果ハ破産入場合ニ於ける機械等是處
別除權又屬因太爲兩況々破産以外則承認通シ競押ノ場合ニ居クノ特權又シ
アリカク效力發テ拂拂却下地若然惡亦破産ノ規定過半以下又云ハ適用ガナ
者ヲアアル此點ニ於我民法程結果ノ異大起ノ事アリマス破産法ハ早晚改定用
ニキモノニアアル我ニ只全法典調査會ニ於テハ其改正案起草中ダアリスガ此
改正案ノ法律正爲ガラ甚多分違タバアリ特スモノ既以故モ破産法ハ民
芸ヲ證明ル家云ガヤ次大コトハ著者少無更無レ思フ唯一勝又先取特權シ如
ハ果シテ之ヲ別除權ノ原因トスルヤ否ヤ或ハ別除權トシテハ認メナイカモ知
レマセス又特別ノ先取特權ニ至ラハ現ニ獨逸法ニ於テモ之ヲ法律上ノ質權ト
シテ認メテ居ルモノニアル例ヘバ質貸元亨ノ法律上ノ質權ハ一度我質貸人ノ先
取特權ニ相當スルノニアル名コソ異ナレ其實殆ド同ジモノニアル故ニ我民法
ト獨逸ノ法律争ハ大變ニ達フナクニ見エルケレドモ其實際ノ動ヲ見タナラバ
大ナル違ヘナイデアラウト思ヒマス

據悉我民法ニ謂う所別先取特權事ニ如何大ニモ必テ要則タ既定義我民法云規
定シテアル故立特權ニ其對照ト共ニテニニ其體也ハ商人ニシテ業者入ニナハ
ニ第三百三條云先取特權者云本法其他ノ法律ノ規定並從ヒ其債務者ノ財產出
立付キ他ノ債權者ニ先ナテ自己ノ債權因辨済ヲ受クル權利ヲ有スモテノ管
斯様ニ規定シテアル是ニ依テ見ルト或債權者ガ或財產ニ付テ他ノ債權者ニ先
チテ辨済ヲ受クル權利ヲ有スル場合ニ於テヒ他式質權抵當權ヲ加キ特別ノ規
定アルモノヲ除イテハ總ラ皆先取特權ニ爲成ル此謂之今試云民法第規定五
百八十九條イテ如何ナル先取特權が成ル事ト申ス既先テ第一項ノ既法ヨリ生ズ
必所ノ先取特權デアル國稅及地方大稅ハ皆先取特權ニ因ス擔保セテシテ居
ルノアル又商法ニ規定シテアル所ノ船舶債權者稱某處居ル者ニ矢張先取特
權ヲ有シテ居ルノアル商法第六百八十條以下其規定ガアリマス即チ船
舶其屬具屬其ト云フヌハ海商法及專門課ヲ外制沐未特ニ其規定ガアリマス
及ビ未ダ受取天ザル運賃ノ上並先取特權又有スル事云者余以太嘗未居ルメビ
ガラ此先取特權ハ船舶所有者天債務ノモ並付別幕ス以人次ナ以次大船舶ノ實

借人ノ債務ニ付テモ存スルモ未だト一物ニ明示ヲ以テ之ヲ規定シテ居ル(第五五七條第二項)次ニハ保険業法モ規定ガ不ル保険業法第九六條是ハドウ云ア場合カト申スト保険會社ガ或場合ニ於テ被保險者ニ對シテ負ウタ居ノ債権ノ爲ニ其積立金ニ付テ先取特權ノ存スルト云有場合テアルソレカラ明治三十三年勅令第三百八十號ノ第六條ニ第七條ニ外國ノ保険會社ガ日本ニ於テ營業ヲ爲スニ付テハ或金額ヲ供託シナケレバ大ラク其供託金ノ上ニ被保險者が先取特權ヲ持フト云フコトガアル「先取特權」ト云フ文字ハ用ヒタナイタビシニ優先権ヲ有スト云フコトガアルカラ詰テ只今明讀致シ名民法ノ第三百三條ニ依テ先取特權ニ爲バ他モ或ハアリセセガ先テ此等ガ目下私ノ記憶シ若居所ノ先取特權ズアル

之ヲ要スルニ先取特權ナルモノハ法律ノ明文ガナケレバ存スルモノデアル、當ニ契約其他ノ法律行為ノ以テ之ヲ規定スルコトヲ得ナシキナラズ、一旦取扱シタル所ノ先取特權ヲモ債権ト共ニスルニ非ザレバ他人ニ之ヲ譲渡スコトハ出來ナシ單ニ明く債権ノ先取特權又種別テ以テ乙ノ債権メ擔保為ス制云然ニ付テハ或金額ヲ供託シナケレバ大ラク其供託金ノ上ニ被保險者が先取特權ヲ持フト云フコトガ生ジナイズムナ不併シリヨガ準用ノ準用ナル所トアル、サウシテ抵當權ニ付テハ第三百七十五條ニ其譲渡ヲ許ス旨ヲ規定シテ居ル故ニ少クトモ不動產ノ先取特權ハ債権者ニ於テ任意ニ之ヲ譲渡スコトヲ得ルノデハカルカト云フ疑ガ生ジナイズムナ不併シリヨガ準用ノ準用ナル所テアル他ノ規定ハ大抵似テアベタク但専令ノ譲渡ノ規定ト云フ者ノハ先取特權ニハ候ラナヘ抵當權カラベ抑モ當事者ノ意思ヲ申ノ債権ノ爲ニニ之ヲ規定シヤウトモ乙ノ債権ノ爲ニニ之ヲ規定シヤウトモ隨意ズアル、之ニ反シテ先取特權ナルモノハ法律ノ規定ニ依テ其性質ヲ具ベタル債権ヲナケラモノ先取特權ニ依テ擔保セラルト云フコトハ大半カズアル、故ニ其性質ヲ具ベタル所ノ債権ニハ移スト云フコトハ全ク不能ノコトアル、性質ガ之ヲ許サヌノアル、斯様ナル規定ハ適用ガ力ナム其レガ準用ノ準用タル解説アヘ、此事ハ一應疑

トハ爲ルか知ラズ外にモセ能タ者ヘレ半概別題以シ不問題ダム我がラク利考
ヘマス、
ナ、此先取特權ナルモノハ如何ナル場合ニ之ノ法律方與フルカト申ス。其レ
ハ大別致シテ二ツノ種類ガアル、即ち一般ノ先取特權ト云フモノ、是ハ債務者ノ
一切ノ財產ノ上ニ存スルモノニアル、或財產ノ上ニ存スルト云ヌノニアナホ、次
ニハ特定ノ先取特權ト稱スルモノニアラ、其レハ或動產又ハ不動產ノ上ニ存ス
ルモノニアル、此第一ノ耶テ一般ノ先取特權ト云フモノハ是ハ物權ニアル、云
フノハ聊カ不正確ノ言タルヲ免レナイノテス、一切ノ財產ノ上ニ存スル權利利
アル債權其他有體物ヲ目的トセザル所ノ財產權ノ上ニモ亦存スラシデアル、故
ニ正確ニ言ヘバ此先取特權ナルモノハ一部ハ純然タル物權ニアルガ、一部ハ純
然タル物權デバナイト謂ハチバナラス債權ノ上ノ先取特權又ハ無形財產ノ上
ノ先取特權ト云フヤウカモノハ固ヨリ物權デハナイ但無形財產ノ上ニ先取特
權ガ行ハルナ否ヤト云フコトハ強制執行法及ビ破產法ノ規定ニ依ラ定マル
コトデアラ、其規定カラシテ直接ニ此等ヲ權利ガ先取特權ノ目的有ラサオ

云フ結果ニ爲ルカ知セサセミガ現行法ニ於テ民事訴訟法ノ第五百七十九條
ト第一項第十二號ニ唯斯ウ云アコトガア然然ケテ既債務者又ハ其家族ノ未名
公示セサル聲明ニ關スル物及ハ債権者又ハ其家族ノ未名公示セサル證明書
本下斯ウ云ノ事トガアガニ過ギナインデス著作権特許權等然渠シノ之ノ差押
ブリコトヲ得ルセシナルモ否ヤト云ス又上ノ其規定ノハ分ヌルトガアル、破產
法ニ於テ現在ハ之ニ關シ又何等ノ規定無存格ナム、單ニ舊商法第十一條(商法上
シヲハ舊法ナルガ破產法上シヲハ現行法ニ破產者ノ財產ニシテ民事訴訟法
從ヒ強制執行ノ爲メ差押フルコトヲ得タル無ハ之ノ財團ニ加フルコトヲ得
ス」トエミア、其著作権又ハ特許權等ノ如キモノ又破產財團ニ加ヘナイト云フ規
定ハアリマセ共故ニ現行法トシテノ著作権特許権意匠権商標権ノ如キハ矢張
先取特權ノ目的ハ爲セズト看來宜カラム者ト考ヘテ其併シ此等ノ將來人破
產法ニ於テ一或不破財團ニ加ヘヌト云フ生前權爲ルカ所知致テ但不、民事
訴訟法ガ改ラガ不、矢張先取特權ノ目的物未爲處財云ヌロ原ハ免レニシズ不
ラウト思セサセシム見ルト判例一般ノ先取特權ナルモノ出物權ニアル場合ト物

植ダオル場合ミテモ之ア物権アガル全體言論ルヨキハ出事體不思議分メ唯
有體物ノ上ニ存不思ロ武器多用上者テ銀錠之某物權シテ居テ云フス外
大ホト思ヒテ此學理能之ヲ意ヘバ少般メ先取特權ア有體權即ア動產又久不
動產上ニ存スル場合ニ於テ純然タル物權ナムガ其他ノ場合ニ於テヘ物
權ブナイト謂シ子母力アスト思ヒテ未尙別ニ先取特權ニ付カセ公吏人
職務上ノ過失甚差着テ其保證金ノ上ニ存スル先取特權ノ如歟ハ是ヘ純然タム
物權アガリマセ、保證金ト云フトモニ有體物ノ如ク見ル、金錢ト云ヘテ動
産アガラム、併シ法律的ニ之ヲ言シバ所謂保證金ナムスベ有體の金錢
トシテ存スルノテナクテ裏ニ公吏ガ政府ニ納シタル所ヘ金錢ナム政府ガ畢竟
返還スベキ義務ヲ負フテ居バノダアル、公吏ガ幸ニ過失ナシシテ其職務ア能ム
ル場合ニ保證金又下戻ヲ請求スルコトガ出来ルノダアル其債權ノ上ニ先取
特權ガ存スルルノダアル、其他船舶ノ先取特權ニ付テル運送貨ノ上ニ先取特權ノ
如キハ失張債權ノ上ニ存スルモノダアル純然タル物權アハ大ホモニ先取特
權モ地ノ財產ニ付テ存スルコト共爲ラ居ルカラ(少シ通載邦ニ於クハ是レ亦
種モ地ノ財產ニ付テ存スルコト共爲ラ居ルカラ)

一般ノ先取特權ト異方獨手ト合意ノ間ニ有體物アリテモ其物ヲ賣却セヌト貿
貸キラレ第ヘ滅失若クヘ毀損又外傷余キテニ債務者が受取ル時半所人金錢
其他ノ物ト大抵ウ金錢アシガ、時ト限ナ商品アリル、其レ等ノ物ニ付存スル
先取特權ガアル其レハ民法イ第三百四後ニ規定ニ爲ラ居ル此場合ニ於ク先
取特權ニ付テ債權ノ上ニ先取特權アリテ純然タル物權ブナシ私共ノ債ズル
所デ一抑モ先取特權ト云コモノノ物ノ上ノ權利ト云看ナヤ或ハ其當ヲ得ルガ
モノゾハナカナル思ヘル然ノ先取特權ヘ常ニ權利人上ニ權利アリ普通ノ上
ニ權利ト云コモノ不準正確賣買セヤ物權所有權ノ上ニ權利ト云ノ方ダアヌカ
ト思フ何ヲ以テ之ヲ言エカ則云直ジ先取特權トハ如何カモノゾテルカト云
モトヲ考ヘテ見カセテ大ホ又債務者ノ財產ヲ付テ他人ノ債權者ニ先ナニ辨済ヲ
受カシム利ギテアドト云コモノアリ併シ辨済ヲ受ケル時ニ付之ハ其目的物ヲ換價
シカタシナモ交換價アリテ然ル後其代價ヲ自己ノ辨済モ充足スルアリ代
價を得カ得ナニニ必ズ賣買未セ辨済文及ヌ物ノ賣却セテナラニ賣却ノ物ノ
東却此云ヒテスケレドモ物ノ賣却ト云ニヨトヘ誠ニ非法律的言論アハ法津

業ノ底ニテ觀ルト物ヲ賣賣ト云ハシテオノ所、物夫明有權言賣買オム物老能
上權賣賣ト云フ事ヲ賣利ナ賣賣シテナホ物賣賣ルト云フ其物又語有權ケ
シ思エド云ナ意處多以決シテナホ古有權ケテ、賣通、物ヲ代價タケテ價ハ共
不物ノ代價ト云ナトキヒオツモ所有權ノ代價テアル、物ヲ賣ラト云ヨリ本ニ即刻
或物ノ所有權ヲ取得スル爲メニ、是ノ代價ヲ由スリテ然ラバ正確義之ヲ
言フト早ミ於テ、物の所有權ヲ賣賣ズアリ、然ラバシ時向シ物ニ付テモ地上權
ノ賣賣モアシバ永小作權ノ賣賣モアシ地主權永小作權ニ付テハ權利ヲ賣ルト
云ク、方所有權ニ付テハ通常ハ物ヲ賣ルト云フ是ハ本正確ノ言葉ナルケレ
ドモ古寺東西ノ般ニ行ハシテ居ル所ノ慣習ナル法律家下應モ此言葉ヲ用ビ
並法者モ失張此言葉ヲ用シテ居ル併シ能ク考ヘテ見ルト云ナト其處ハ甚ダ不
正確ナ言葉ナルト云ヨリトク認マシバナラニ然テハ先取特權ガ物ノ上ニ存
莫ルト云フ大ハ正確ニ言ヘバ物ノ所有權ノ上ニ存スルト云クセドニ爲ムナシ
タル所有權ノ制主存スル權トソ得ル權利ナタヤ歸於地主權永小作權ノ上ニ存ス
ミ存スルノ事例ナル越上權永小作權ノ上ニ存スル權利ナタヤ、債權ノ上ニ存ス

ルノデアハ無形財產權ノ上ニモ存スルノアスハ故ニ先取特權ノ物權ト雖存
コトハ立法論トシテハ其當ヲ缺ケア居ルト思ミマヌベ我法典ノ解釋ニ致シテ
ハ所謂物ノ上ノ先取特權即テ正確ニ言ヘバ所有權ノ上ノ先取特權ハ物權ア
ル地上權永小作權ノ上ノ先取特權モ議論ヘアラシガ物權外ト思乙他人場合ニ
於ケハ物權ズハナイト云ハサイカヌ只此三ノモノヲ區別シテ各異ナリタ
ル規定ヲ設ケルノ必要ナキガ爲テ普通ノ場合ニヘ物權アリカニラ物權トシテ
規定ヲ設ケテ其規定ヲ自ラ他人場合ニ適用アヌシシカガト新アロミニ爲ル
居ルノダアル貢之ヘ、對證書、證書、米々賣、キナ、等皆サシテ書面附賣契
是ヨリ先取特權の種類ヲ簡略申上セダ前スルト先ツ一級ノ先取特權萬レニ
一チ共益ノ費用如何カルモノアリカニシテ、先ツ一級ノ先取特權萬レニ
費用ヲアル、重モナルセニ又言ヘバ債權者ノ財產ヲ賣却スル費用之ヲ分配スル
費用等ノ如キモアリ此費用ヲ懸ケヌルベ債權者ハ非濟ヲ受クガヤトガ
出来ナイカラ此等ヘ所謂共益費用アリバ、次ニ簡略ニ計算式ノ費用是ガ風俗ト
衛生トノ爲メニ必要カガモノアリテ第三節が雇人未給料基ニ雇主ガ如何ニ責

因ニ附ルトモ其爲メ雇人ガ一時ニ主人ヲ見放シテ去ルト云フヤウナセノアル也ノモノハ或債権者
ヲハ甚ダ困難ラスルコトデアル又此等ノ者ハ贈給ノ者シテコト無事ヲ貰ハナケ
レバ路頭ニ迷フ者モ隨分出来リ本題トハ限ラヌモカア然ガラ苟モ其金額ヲ
甚ダ多カラザル限ハ特ニ之ニ先取特權ヲ與ヘルト云フコト勿屋主ノ爲ミセ
雇人ノ爲メニモ頗ル必要ナルコトアリ第四ト日用品ノ供
給之ナクシテハ如何ニ負債ノ多イ所ノ債務者ニ生シロ忽チ生活甚困難スル事
アラウ、如何ニ貧乏ナル債務者ト雖モ米ヲ賣フテ吳レル者ガナイ醤油ヲ賣フテ吳
レル者ガナイト云フコトガハ諾リ生活ガ出來サカル此等ノ商人ガ多少債務
者ノ信用シテ懸賣ヲスルコトが出来ルヤウニ若シ破産差押等ノ場合ニ於テハ
先取特權ヲ以テ此等ノ者ニ辨済テスルト云フコトニ爲マテ居ルノテアリマス
是が一般ノ先取特權ニ債務者ノ總テノ財產ニ付テ存スル所ノモハアル矣ニ
ハ特別ノ先取特權是ハ動産ノ先取特權トニ分レ居ルア
動産ノ先取特權ト云フモノハ大別致シマスト二種類アリ其一ノルモハ特別
ハ關係アルガ爲メ債権者が債務者ノ所有物ヲハ惜モ自己ノ貨物ノ如ク必得テ
ハ關係アルガ爲メ債権者が債務者ノ所有物ヲハ惜モ自己ノ貨物ノ如ク必得テ

居ル債権上殆ド貨物ト觀テ居ルト云フヤウナセノアル也ノモノハ或債権者
ノ御蔭ニ債務者ノ財產ガ殖ニテ居ル、或ハ失フベカリシ所ノ財產ヲ失フナムコ
トガ出來タ、即チ一般ノ債権者ノ爲メニ擔保ト爲ル所ノ債務者ノ財產が或債権
者ノ御蔭ニ増加シ若クハ減少シナシマス居ル、其債権者ノ御蔭ガナカツタナラバ増
加シナカツタデアラウ若クハ減少シタデモアラウト云フヤウナ場合ニ於テ法律
ガ與ヘタル所ノ先取特權アル此二種類ノモナシニ於テハ孰レテ先ニスル
カト云フコトガ外國デハ隨分問題ト爲マテ居ル其各種ノモノハ如何ナルモノアルカト云フト
一人種類ノモノ即チ債権者が自己ノ貨物ノ如ク觀テ居ル所ノモノハ特ニ保護
スル必要ガアルト認メタノデアハジレバ他ノ種類ノ者ヨリハ原則トシテ先ニ
辨済ヲ受ケルコトニ爲マテ居ル其各種ノモノハ如何ナルモノアルカト云フト
第一不動產ノ賃貸借ノ場合ニ於テ賃貸人ノ有スル所ノ先取特權アル是ハ重
ニ貨貸不動產ノ上ニ備附ケタル動產を付テ存シテ居ル即チ債権者而シテ此
場合ニ於テハ賃貸人デアルガ殆ド自己ノ貨物ト心得テ居ル自己ノ所有ノ不動
產ニ貸借人ガ持來フ所ノ動產ノ上ニ先取特權ガ與ヘテナン、尙ホ其外ニ土地等

リ生リタル果實ノ上モニ先取特權ガ與ナリアス是ハ第一種ノ先取特權デアノヲ隨テ其順位モ後ニ爲マ右居ハ第二ノ旅店ノ宿泊ノ因フ生ジタル特權宿泊料及ビ飲食料デアノニ之ニ付シ旅客ハ手荷物ノ上モニ先取特權ガ存シノ居ル即チ價賈上旅店ニ於カヘ旅客ハ手荷物ヲ殆ド貨物ノ如ク心得テ居ル若シ旅客カ拂リセヌ大ラバ手荷物ヲ押スルイ宜イト心得テ居ル故ニ之ニ付テ先取特權ガアリ第三ハ旅客又ハ荷物ノ運送ノ場合ニ於カヘ其運送貨等所付テ荷物ノ上ニ先取特權ガ存シノ居ル是モ同様ノ理由運賃又アリ要取扱ナタアキ荷物ヲ垂ニ持テ居ルカラ卒ザト云ヘバ其荷物ノ差押ヘビ亦宜シト思クテ居ルソニカモ第四ガ公吏ノ職務上ヨリ生ズル債務ニ付ス其保證金ノ上モ存スル先取特權品ニ矢張質物ト心得テ居ル政庫ガ保證金ヲ取ルヘ何人ハメテノ職務上ノ過失ノアリ場合ニ之ニ因クテ生ジタル損害ハ賠償ハ被ルカ爲メテアリ故而人民ガ公吏ノ職務上ノ過失ニ因フテ損害ヲ受ケタル場合ニ於カヘ其保證金カモ賠償ヲ受ケルト云不トモ常ニ豫期シテ居ル所ズアリテ斯く大殆第政庫自自己セ代理人トシテ質物ヲ占有セズ又ノ居ルメト同ジヤヌモ心得テ居ルシテ

カラ是ム矣張先取特權方與ルチアル此四事ノ基列ハ先取車上ダタ第一ノ種類ニ屬タル確不動産ノ賃貸人ノ先取特權ニ付スル果實外ノ例外ガアル果實該項ハ算定第二ノ種類ナガアル是ヨリ前並ノ種類ノ先取特權ヲ昔古ハ第一ノ動産ノ保有者ニ付テ或費用ヲ出シタル者ガ其償還ヲ求ムルニ付テハ其保有シタル物ノ上ニ先取特權ヲ有スル是ハ若シ其費用ヲ出シテ保有シジガ法ヲタナリハ多分消滅レタデモアラタシテ少ダモ大ニ毀損シ致ダモアラタシテナラシレ詩カガナ無クナルカ少タキ大ニ其價ヲ減シタガモアラ文ト云アノデ懲罰費大御書ニ其レガテ財產ガ債務者ノ資産ノ中ニ存シテ居ルト云スノデ先取特權ガ與ニテナル哉次ハ動産ノ賣買ノ場合ニ於カ若シ代價未ダ拂テナシテラシテ買主方利息ヲ拂ツベキ場合ナラバ其利息ニ付スル同様ガアルガ此場合ニ於カノ賣主方利息ヲ拂ツタ拂ヌ是ガ債務者ノ財產ノ中ニ存スル所ナカニ其代價セ拂ハシタ普通之債權者ガ其物ノ價並取ルト云スノト非不公平アリト云フラブ先取特權ヲ與ムニテ居ルノデタル其次ハ種苗又ハ肥料ヲ供給ノ場合ニ付テ

モ同ヨリテ其代價及ビ若以利息ヲ拂ス時先場合方又バ其利息ヲ交拂ガカナアズ
タチ種苗肥料ガ現春耕未居ルキニ其上ニ先取特權イ存スルモノヘ右ニ申シ
タ賣買ノ先取特權ノ結果モ固ヨリ疑ナ得ミトボア此ガ貯木其土ニ土地莫力出
ビタル果實ノ上ニ先取特權ガ存スル其種苗其肥料御蔭ニ出来タ果實ズ因
ゼカラ其土ニ先取特權又ヘテ居ルノズアル終ニ興業之勞我者ガ其農工業
之生産物ノ上ニ先取特權ヲ持テ居所ノズアル是モ其者等ノ努力ノ御蔭ニ生産
物ガ生ズ矣ノダアルカラ他ノ債權者ガ一般ニ其利益ヲ受クルコトニ爲シカヌ
若シ其資金ガ拂ガカムテバ先ツ先取特權又以久之ヲ拂スノガ公平デアルト
云フネデ此先取特權ハ既ケタレ居ルノ事アリ是ダクガ動産ニ關スル先取特
權ノエラシ既ミ資本全ツニ付キ既無用田ニ田ニ又ニ付キ其當該ニ蒙ルニ付
次ニ不動產ニ關スル先取特權ハ都合三種アリ是ハ何等モ債權者ノ共同擔保又
增加シタ或は共同擔保ノ減少少妨ゲタト云フ理由デ先取特權ガ與ヘラアル第
一ハ不動產保存ノ先取特權此場合ニ就カレ動產ノ保有ノ場合ニ先取特權ガ與
ヘラアルト同上ノ理由ナリ所第二モハ不動產ノ工事ニ因ラテ生ジ外ノ事ノニ付

テ先取特權ガアル此工事ニ必要ナ修繕ノ場合ヲ云フノデハナイ必要ナ修繕ノ
場合ハ保存費ニアル此工事ト云フノハ成ハ土地ノ上ニ新ニ建物ヲ設ケタ又ハ
既ニ存スル建物ニ増築ヲ爲シタ又ハ裝飾其他ノ改良ヲ施シテ建物ノ價ヲ増加
シタ又ハ土地ノ價ヲ増加シタ成ハ建物ヲ改築シテ從來ヨリハ價ヲ増シタト云
フ歷例アリ場合ニ於テ總計其直率率因ロハ價ヲ増加シタ又部分ニ存ラ去ヘシ至テ
其工事ヲ御舊ニ其價ヲ増加シテ少少アル故ニ其増加分價並付テハ先取特權ヲ存
リフ居ル第三ハ不動產ノ賣買ノ場合並於テ半度動產ノ賣買ニ於テテナリト謂少キ
ササ先取特權が存シ多居ルテ少箇ニ陳ト事ニ言ヘテ其益費但ヘ特徴ヘ公算神
是ダク顧我民法ハ規定其ノ所第先取特權ヲナリ女契約位ヲ實行ス特別ノ先
取特權云々競アリ先取特權ヨリモ先ニ濟済アリテ此民事ノ西洋ナム權利機能分
アル規制下モ我律定明文實則源之度定リテ専ル實由ソシ般ラ先取特權ハ
債務者ノ半額ノ財產ニ付テ必剥奪ヲ居ルノテ少シガリ申テ財產ニ付テ其先取
特權ヲ行ベヌドセガノ財產カラシ内テ財產減少モ失喪ニ般ノ權利機能ニ先テク
濟済別受取用也ト好出家業済少ナル之ニ反シテ特別ノ先取特權機能若シ其先

取特權の目的物ニ付ケ先取特權ニ行スコトを得ズ。併シ畢竟一般ノ債権者と同様、
特權者ヲ受クノ外ヘ在キモテ不當故、而其利害全闇スル所ハ餘無也。是モ之
ノ居ル、或財産ニ付ケ云々セテ收財產ニ付スノミ先取特權ヲ持フガ居ル者也。然ニ總
テノ財產ニ付スノ先取特權ヲ持フガ居ル者ヨリハ先取保証スル必要ガアリシ也。特
別ノ先取特權ノ方ガ先ニ爲フタ居ル、或其一般ノ先取特權ニ付スノ先取御話ヲ
或シタ順序ニ依フ居ル。此等深文理由ナキ、唯立法者ガ前居計ニ保護スル
必要ガアリト認ムタ爲スアル、尙ホ細イ事ヲ言ヘバ共益費用ハ特別ノ先取特
權ヲ先ニ場合ガアリマスケレドモ此等ハ始末法文ノ規定ニ據テ茲モ説明ナ
加エサセキ。之ヲ要スルハ此先取特權ナ照モニハ法律ガ或債権ヲ特別保証者
ノ理由アリト認ムタ一般ニ債権者ヨリモ先ニ辨済ヲ受ケタメカクト云フ才
アル又ハ土地ノ歸属を争ひ財産を追索する事案ハ、専門的知識を有する者
連ニ第ニ大抵時ニ被訴し、實力ハ其者ノ實力也。其者其處ノ道員モ巡査モ警察
署合ハ署務費にて該地工事を監視する事ハ土建ノ事ニ關する事務を執る者又ハ
其張理幹部までハ前工事ハ必要で過當も出来て居た事ハ、下に必要で過當ハ

詐欺及ビ強迫ニ關スル推問

大 耶

講師 法律行為ノ要素ガ總ア具フ居ルニモ拘ハラズ其法律行為ガ無効ト爲ム

場合ガアルデスカ

生徒 ナイヤウニ考ヘアヌマニテ詐欺アヤマツチハ聯合ニハ居テ原宿アヤマツチ

講師 ソレデハ或法律行為ノ取消ナル場合ガアリマスカ

生徒 アリマス

講師 ドウ云フ原因ヲ

生徒 例ヘメ詐欺強迫ノ場合無能方ノ場合ハ、ハルハ原宿アヤマツチハ、原宿

講師 取消ナルトドウアリマス

生徒 カヨリ無効ナリト云ナコトニ爲リヤ某ハナカニテ詐欺アヤマツチ原宿

講義 先取特權三合の法

一七八

講師 詐欺又ハ強迫ニ因ツテ取消ナル専其詐欺ハドウ云フ詐欺デアタラ取消ヲ

レマスカ

生徒 苦モ詐欺ヲ既に既者ノ治メ錯誤ニ陷ラシムレバ取消ナルルト考ヘマス但

法律行為ニ要素利錯誤ガアタナラ無効ト爲リマス

講師 取消ス必要ガナクシテ無効ト爲ルノデスカ

生徒 答ヘス
如地主社員、建物を以て其公私にて

講師 其場合ス除金ヲ詐欺ガアツ錯誤ガアツ場合ニハ地ヲ取消ナルコトニ

算リマスカ

生徒 左様ト考ヘマス
且又其を誤りニシテハ其此相違算セテ誠賢イ念

講師 例ヘバ私ガ一ツノ金貸デアル、相當ノ資力アル者ニ金ヲ貸スコトニ爲フテ居ル所ガ或人ガヤツテ來テ金ヲ貸シテ是不動産を當トシテ金ヲ貸シテ吳レト云フ、所ガ其不動産ハ債務者ノ所有物デアルケレドモ債務者ハ自分ノ名前又言フ
前ヲ言フ、ナウシテ金ヲ借リタト假定シマス、其レハ詐欺ニ相違ナイデスガ其

レヲ債権者メ信ジタ以上ハ錯誤ニ陷ラシメタルノデアル其場合ニ其貸借ハ取

消

生徒 取消大抵此考ヘマスが然ニ爲ス者無事也取消スル時考ヘマス

講師 併シ抵當ガ進入シ居候其レハ誰が見テモ價値十秀アヘ、其不動産ニ付テハ少シモ瑕疵モ何ニモナイ、抵當權ハ立派ニ成立シテ居ルゾレデモ取消ヲレマスガ
生徒 取消ナシル間考ヘマス思案又は考ヘマス令セキ者を當金ノ要合意者を意思表示

講師 ナウス所ト同ソナエトニ付テ詐欺ガアツモ取消シセスガ其當物ノ

生徒 左様ト考ヘマス

講師 併ナガラ能外考ヘリ御覽ガナ不私ガ金貸商賣アツモ極タ確アリ當ヲ持テ
之奉川支次スレバ持テ來タ人ガ甲アツモ乙アツモ貸スカモ知レヌ抵當ノアリ場合外ト云フ是借主大傭人ナシト云スヨリス信託アリトベ云ヘ
カイ就中抵當物ガ十秀ハ價ナア此場合大利ベ事也抵當物ノ信用狀ノ貸シタ
云ハナケレバナラヌデハナイデスカ

生徒 答へス ノミテ又アヘナトテスカ

講師 (他ノ人生徒モ對シ) 不ナ名ハ今ノ問題ニ付テ矢張取消案ニ原因思ヒテス本
生徒 取消ハ出來ナシト思ヒテス某レバ金ヲ貸スト云フ意思及決断ヲスルノ
原因ト爲テナインカナト思ヒテス

講師 オウスルト先刻森田君ノ生徒ノ言ハレタダケテハ能倣ガ是ニ失念テモ
カ

生徒 所謂詐欺ニ因ルト云フノゾガザイマスカラ詐欺ノ結果トシテ錯誤ニ陷
リ、ナウシテ其錯誤ニ因ス意思表示ヲシタノデナクテハ今ノ場合デハ意思表
示ノ決断ノ所ニ詐欺ガ關係フシテ居リマセスカラソレハ取消ハ出來ナイト
思ヒマス詐欺モ前ニ申セシム當初ハ立場ニ眞立トモ亂れヒテアリテ第前セシム

講師 オウスルト森田君ノ言ハレタクテ少シ條件ガ是ヌキルズ、詐欺ニ因ル大
き錯誤ア生ジタ其爲ミニ法律行為ヲ爲スニ至、タト云フノガ取消ノ一條件ニア
ムト云フノズスカ

生徒 ナウデス語ヒテ以テハ當然ニ譲セバシテハ其謀合ニ其費習ヘ則

講師 詐欺ニ因フテ錯誤ラヤタナラズ其詐欺の法律行為ニ影響スベキモノノア
ガバ併シ其詐欺を何人ガ行ウチモ宜イノデスカ

生徒 送其相手方ガ詐欺ヲ行來乎場合普や何時モ實在其間又第三者ガ行ウ
場合ニ至其當事者ガ之ヲ知フタ居リアセシム取消ガ出来マセヌ、然モ此後又
講師 オウソラヨハ法律行為ニハ相手方ガアヌマシカ手続セシモ書面意思ヘセト
生徒 送相手方ヲアル場合ニハ相手方ガ詐欺ヲ行ウタキハ勿論取消ガ出来
ス又相手方ノゴザイニセキ上書き又ハ相手方ノ不ル場合モ第三者ガ行ヒ
シテナシカ相手方ヲタガ出来ヌ又相手方ナシイ場合モ固別シタ申上グ事ス既ノ相
手方ノゴザイタシの場合ニ付考申上然マシカ相手方ガ詐欺ヲ行ヒトカ又ハ
第三者ガ行ヒマシタ場合ニハ相手方ガ其詐欺ノ事ヲ知フタ居リマシタトキニ
其ノ之ヲ取消スヨトガ出来ヌ又相手方ナシイ場合モ固別シタ申上グ事ス既ノ相
手方ノゴザイタシの場合ニ付考申上然マシカ相手方ガ詐欺ヲ行ヒトカ又ハ
第三者ガ行ヒマシタ場合ニハ相手方ガ其詐欺ヲ行ウタ、然ルニ誤約有リ契約又締結
シタカラ後ニ相手方ガ其事ヲ知フタツヨシキ取消サレアスカ

生徒へ日本がセムル契約を其眞實時ニ知テ居ラキ眞學リトモを以テ

講師 基程宣ウセダヨス他又生徒等皆シ強迫ニ被フテ取消シ出來テ後云フ

トヲ先割森田ナシ方當ハシタガ、其場合ニドウ云フ場合デス

生徒 異シノ要約ウシナ候時ニ相手方ガ强迫ヲ加ハタ已ハタ得オ要約シタソ

シアリマスヨリシテ是合ニヘ由来夫々其眞實事モ誠モモニテニ
講師 ワーラツ場合ヲ想象シテ何少支取ガ餘程脛痛ナ人間アルド假定シテ、
斯ガ山中一人旅ナシテ居ル、ジコニ雲ラ突ク大ノ男ガ出テ來テ貴様ヲ持テア
ル物ヲ皆出セスカ斯ウ云ウタ、私ガ若フ且ハ持テ居ル物ハ何ニセナキト云フテ懷
中ヲ明ケテ見セル事何ニセナキ、更ニ述シテ威方言ナニヘ社方ガナキヨリサ約
東手形ヲ書カセ法タシテ、ソウ云フ約束手形ナゾフ書ク意思ハナイ隨
才金ヲ送ラシト云ク寄ミカイタレドモ減多方ニテ書カセ渡ス、此場合ニ於テ要約東手形ヨリ
出シ云度シテ已ニ得株ズ約束手形ヲ書カセ渡ス、此場合ニ於テ要約東手形ヨリ

生徒 債務成立向カシカセキヤモトヘテ大矣

生徒 物東手形其後少ニ對シラム、成立シカセキ事特引致ニ達兼ヘンモモヘニヤ

講師 其ノ次に成立モ不カセトヘンナハ、

生徒 其レニ事實ノ解釋吾爲若アヌビリ算セテ云フヤウナ非常ナ强迫ア加
ヘラベタ場合モハ其人ノ意思ノ自由ガナイトキハマルデ成立シナイ、併シ其
人有變化ノ自由ヲ失テ場合デタリハ或然ケ財バ先割申上ダニ遅宮其強迫者
ニ對シ取消シ得ベ無視アズア意思ヘナトベニテ相手側ニ陳東手形ヲ書カセリ
講師 マクニノ自由ヲ失テ居ヌガ東セテ取消シ得ベキヨンダス、能リ自由
ヲ失ヘヌリ云無視强迫タセヌト云又者ニ對シテ抵抗ノ出来ル場合デセカ

生徒 先フ强迫ニ因テ算ヌキ、強制的ニ任意的亦ハナリ陳東モ多參意思五、強

制ヲ受ケテ手形ヲ書イタ場合ニハ總テ取消セマス

講師 オレ所持手形ヲナキ者モセイ書類モ置カセトヨリ断トスモ猶ムテ思合
模様、余張舊紙又負擔者意思モナシタノデスカ、アタタノデスカ
生徒 大抵ノアタノダヌ言カセ不為立ヘ思合ヘナリテ是合セス

講師 先刻文大文字言フタ不成立ノ場合ハドンナ場合デス

監視 報表意思ヲ表示場合武法テモルニシテ又ヘテ又ヘテ又ヘテ

講師 今モ應應ハア不、ケレドモ書附ヲ遣ラナイト怖イカラ渡シタト云フ場合
去前ドリテ又其後日應應立ダヌジタ本部ノ欲留モ遙カレ候事ニ書トス

生徒 併シ強迫事例アマニシ場合ニ漏例已ム觉得ズ威脅事負フ事モ要約東シ

書未送未平添セ書トモ書合ニシテ又テ連絡ナシス

講師 式文或詳テ國約東シタ該云列ク計私相心メ中ニハ約東ニ施權實里ニ通
ト云フコト並證明列ヒタナタヤニテ亦ニ送シテ是時ヘ出来テ書合ニシテ

生徒 ケレドモ外形ル上ニ於テハ約東手形ヲ差出候コスレバ主内心ハ強迫

ナビテ居間ヌガラ義務ヲ負フ意思ハナイケレドモ併シ約東手形ヲ書クナリ

書面契約ナシ同大外形亦云ヘテ義務ヲ負フ大抵モルヌ取消せぬ事有

セシテノ場合考へ極大ヘ意思ヘ自由ナキ事ナキモチヘテ或モ力立モト得ル其

講師 其レテ本處ニ契約書實書オタナラレウタヌベニテ大義常々題意モ感

生徒 其レテ連應定チカライケマセス

講師 其次ト同異アホ大本意意思ハ大其物ニ與或誤魔化シテヤラタモ云乞ト
ダ證文ヲ書不タ送ラク、アトヨリ警察署訴願室ナム何ナリシノ意思更明カニシ
タナカバ其レヒト同様ナリテケルナカニハ意也。此意也。此意也。此意也。此意也。
生徒 其跡カラ觀然ト同ツテモアルガ、強迫ニ因ラフ契約シマス場合ハ殆ド
意思ナカニ場合多々ニテ長文アリ當該事ハ即ちアリテアリテアリテアリテアリ
講師 此問題ヘ人情依テ說不述アリ。當其官非君ナド以元ハ強迫也。因テ意思ノナ
イ場合ト云フ大ヘ人ガ手ス提ヘテ證書ヲ書カシタヤウナ場合ヲ言フノデ。其
他ハ單ニ取消シ得キモノガアルモ云タヤタ空氣ヲ言ナリ居タ既無ハ何
ト云ウ者不成立テ居アカ知ヌニカ、ナシ云フ甚ドナ書兄夫モアル方私に問達フ居ルト思
フ。當時債務ノ義ア意思ガホカ。蒙キ云フ所下ガ事實ニ於テ證明セラレタシラ
ダケルテ不成立ダナルト思。併此聲を張追キ因テ之覺思ノ自由ヲ失ル者カラ
ト云ウ者不成立テ居アカ知ヌニカ、ナシ云フ甚ドナ書兄夫モアル方私に問達フ居ルト思
フ。當時債務ノ義ア意思ガホカ。蒙キ云フ所下ガ事實ニ於テ證明セラレタシラ
ダケルテ不成立ダナルト思。併此聲を張追キ因テ之覺思ノ自由ヲ失ル者カラ

斯ウ云々場合合へて意思の確立不所外レ思主備忘ガ意思意思乎自由共通之處ノデハ大抵強迫ニ因フテ已ム又得勝決氣久意圖既刀メキ此トキヘ裏消火得ベキ場合不外ル事實問題日シテ意思制ナム又曰天ア證明不滅多ニ靈廟スガ理論カラ云々實事空文ナム思者此場合意中因關係言不「百至」ノ開係カ更多少而倒立問題ガ起ルズ是ヘ理論上大問題ズ瓦セ令山中靈廟之處、手更握ヘテ寄カシタト云テヤウ太セミハ其レヤ意思表示ズサホ意思然實事空文ニ法クズ表示テシタ松云テコトモ云ヘカモ其レヌ意思表示若意思ナム次第又無效云アリト云アノメ課ヲテ唐ハド唐文書文心ナリ又豈合ヘ言ヘキ其師即(他ノ生徒ニ對)今小音也又(生徒)石津君モニ相手方然強迫別行ノ處ニスバ其者ニ付テハ法律行爲ガ無効又ハ取消ナルト云フコトアフタ、ソコデ契約此モ無關係ノ人ハ強迫別行ノ場合ハドタ強迫ニ因テ裏除キシマニ思合ヘ前之生徒、其ハ又強迫目的ト爲アレ誰誰モ金ヲ遣ルコトヲ承諾シナケレバ證スト云フ美少共強迫シマジタ場合著取消有原因也爲然ナ思フ、唯刀忍拔用テ外メ目的其其人剣意又積大才退意也シ久其時ニ或友馬驥公大吳レ聞セ金元遣ル

斯ウ云々タカヨトア言フ場合ハ取消又モト出處大本流ツテ來シオナリ
講師 其レハ併シ強迫ニ因フテ意思表示ヲ爲シタト云フ場合デスカ、其レハ恐怖士ハ生ジテ居ルカ也知レタ然ニ因モ要約在當事者間ニ於テ強迫ノ爲ス無意思表示ヲ爲シ若タハ義務又負擔スルトハ稱ヘ大イ矣ナウ

生徒 唯此條文ノ上カラ見レバ詐欺又ハ強迫ニ因ルトアル、サウスルト他人ノ強迫ニ因フテ宜イ解デアドト思ヒヤスルトモハ其事非眞也、眞則テ
講師 強迫ニ因アテ意思表示ヲ爲スニ至テ場合デオケラオシヤナラム所ガ強迫ト云フノハドウ云フ意味デアガカシ云フモ其意思表示ヲシナケレバヤクスガト云フテ強迫スル場合デナクレバナラス今ノアナタノ後ノ例ハ一方ニナウ云フコトヲ言フ居ル者ガブルカモ知レニガ刀忍抜オテ断フ仕舞フト云フ其シハ強迫ダケル也併ナガム或法律行爲アンナレバ断ルト云フコトアガハナキデセウ、シテオ甚シテ助ケタ吳レ解バ報酬ナシテア難ラ難ラノ金ヲ遣カウト云フノデスカ又其性ハ法律行爲ナ付テ強迫アメモハ云フタトハ思ヘナイ、故ニ別問題デアモノを知テタケド世強迫示因ク達ガキ云フタトハ思ヘナイ、故ニ別問題デア

ノ、ソニダ強迫ニ因ル意思表示即ち要取消ヲシテスル時
生徒 詰リ意思ノ自由ヲ失ガア畏怖せ生徒居ノマニカモダニアリ勝負
講師 ナクメルト直度今ゾア大變ノ例ニ付シテ大ガ戰テ要ミシサ居後非常
怖イ、其際ニ通掛フタ入ガアル事ナ御前第オレヲ助ケタハ誤シタモラバ百聞達ラ
ウト云ツタ、其場合ム取消セキ欲アリ事爲意ナキ過渡モ要ダシテ
ガテ、大體此ヘ付託者未シノン、或モ大體人ニセシム事、即ヒ一家キヤシノ二
生徒 ソコデ今御話之強迫ニ因ル意思表示ニ當ルカナダスケシドモ今シ場合
ノハ其法律行爲付タア意思表示ニ直接合其長ニ因リテ云シテ事ハ明カダ
クシテ、其長ノ原因ト爲フ強迫ナシモノハ法律行爲ノ直接ノ原因ア
リマセバ又人土ニ付シテ、前項又ニ理屈ニ付シテ、人土ニ付シテ
講師 併公意思ノ自由ガ失ガ居ルトハ間ジコトナス
生徒 お同士ダヌガ他人ノ強迫ニ因リテ意思表示ニ取消ナ候事無事ニ爲シテ居ま
ス、其ノハ御心細真ニ付シテ、其ノハ恐れ又ニ付シテ、其ノハ恐れ
講師 ソレア茲ニ火事ガ起ルニ附帶我ガ居所ニカラ焚ヘテ來タ、ドクシナ
生徒 お場合ト張追ニ因ル場合ナキゼ違意ナシカレ思合ナキ事マニ前ニ本末併文モ宜ト云
講師 其場合ト張追ニ因ル場合ナキゼ違意ナシカレ思合ナキ事マニ前ニ本末併文モ宜ト云
生徒 失ア居所スミテ御心ニ思合ナキ事マニ前ニ本末併文モ宜ト云
講師 強迫ノ場合ニハ遺ルト云フ方ノ法律行爲ニ付テ強迫ナレア居ル、ドク云
アヨトヲシロト言ハレテ、其レシナケレバ殺サレル、其トキハ或法律行爲ヲ
シテ或方ニ向ク居ル今ノ場合ニハ唯畏怖ナシラグ或法律行爲アエルキ
云フヨトニ付タア強迫ニ爲シ居リヤセシ、ソレホラ又種方ニテ申シマシテ、其
人ノ不法行爲致因リ思合ナシ居マニテ、其時某が他人ノ不法行爲ニ當
イテキア居ルカラ取消ガ出来マス、之モ此非實證也、後ハニ言セシ不法行爲ニ
講師 モシ不法ナキ事アヌガ所謂強迫ニ因ル意思表示即チ或法律行爲若葉當
稱付タシテ云若葉不法ナシト云フ事ナメ強迫ナシテ意思表示莫ニ爲シテ場合
生徒 不當付爲原因、不法行爲ヲ覺シタカ取消シルト云フノアスカ

セ下里失シヌ、三國タラ飛下タリ、又怪我ヲスルダヌナ御雲不人者難寒久ル
生徒 善待テ奉ガ助ケテ吳レルオヌ百圖達ラヌ、子圖達弟妹ナ御又家々ハ達
思ア自由ヲ失ア居ヌエヌミテ御心ニ思合ナキ事マニ前ニ本末併文モ宜ト云
生徒 失ア居所スミテ御心ニ思合ナキ事マニ前ニ本末併文モ宜ト云
講師 強迫ノ場合ニハ遺ルト云フ方ノ法律行爲ニ付テ強迫ナレア居ル、ドク云
アヨトヲシロト言ハレテ、其レシナケレバ殺サレル、其トキハ或法律行爲ヲ
シテ或方ニ向ク居ル今ノ場合ニハ唯畏怖ナシラグ或法律行爲アエルキ
云フヨトニ付タア強迫ニ爲シ居リヤセシ、ソレホラ又種方ニテ申シマシテ、其
人ノ不法行爲致因リ思合ナシ居マニテ、其時某が他人ノ不法行爲ニ當
イテキア居ルカラ取消ガ出来マス、之モ此非實證也、後ハニ言セシ不法行爲ニ
講師 モシ不法ナキ事アヌガ所謂強迫ニ因ル意思表示即チ或法律行爲若葉當
稱付タシテ云若葉不法ナシト云フ事ナメ強迫ナシテ意思表示莫ニ爲シテ場合
生徒 不當付爲原因、不法行爲ヲ覺シタカ取消シルト云フノアスカ

生徒不徳法被罰因不法行爲爲由や違之を承認せざるトイテハ大抵
講師若民法ノ不法行爲ニ爲シト私ハ思フ、火異處カ或人又自分ヲ殺スモ云謀
殺合ニ助ケ本ホラノ金ヲ造ラウト云又法律行爲ヅシ平侍ヲ御御夫モ不法行爲
デオモヤカナシヌル居ラズジレデスカラ法律行爲ヲ爲スニ付ク不法行爲ニ
因フク某種爲又爲因爲又無自由メ意思然ナシ即ち不法行爲夫因フク是非其行爲
芝シナタレ特ナラ運也云又意思ニシテ故ニ取消セズ斯文云ツ申モ一爲フノ居
ル是ハ相手方ガ行ハカトモ第三者ガ行ハシトモ構ヤヌ事云アロ後デアリテ
スカイモヨリ不言ハシベ其ノミタマシテ、雖キノハ其イチハ氣拂得音聲等
生徒無生シ畢合ニハ誰ノモ未シテ更ヒ起用音聲ニ音モ無感セシモ風氣等
講師余詐欺ノ場合ニ於テ他相手方ガ詐欺ヲ行ヒタ場合ズナケレバナラニエ
主云フメガ本則之ニ反シテ強迫ノ場合ダト云フト第三者ガ行ウテモ宜イト云
ノヨリ當前アリテモナク云々區別ガアリマス

生徒詐欺ノ場合アリテ第三者ハ爲懲タル場合至詐欺キ羅フ者ムハ無
少オ過失メアル既ダアリテ又本尤ニシマシタモ第三者ガ詐欺來タ場合
カ

本院ガ實地在石見半本人無想何等不實ガ來在ト云逐口至ガアルノ、而追メ場合ニ
ハ免ニ角強迫ト云ヘバ第三者ガヤラウトモ何人ガヤラウトモ強迫ト云フ事
實ニ因フク本人ノ意思ノ自由ヲ失フタ場合アリテスカオ免ニ角法律行爲ヲ
爲スニ付クハ意思表示ニ瑕疵ガアリマスカラソレデ取消セマス
講師其理範ハ詐欺ノ場合ニハサシト云ヘナイカナ、アナタハ詐欺ノ場合ニハ
多少本人ニ過失ガアルト云フタガ強迫ノ場合ニ本人ニ過失ガアルト云ヘマス
カ

生徒ノ付ハ前ヘマニ五二條ニ種類及出来事矣

講師詐欺ノ場合ニ付クハ本人ガ注寫割タ解ヒベ詐欺未程テ然モ本普通實
不外取引ヒタイハ不法章アリテ相手方ガ知ラナニイ際デアフ見レバ自己ノ不
法意ヲ他人ガ負擔スルニキハ爲シカニ内々強制迫ハ場合アリルト注意解イ
人程強迫シテドヒトキハ自己ノ欲セザルコトヲ承諾スルカセ知レス、ソレデ
詐リ言葉ヲ換ハシ言ハセ詐欺ノ場合ニ付クハト靴場会ノ方ノ不法行爲ノ程
皮ガ高ム其ヒア難ケタル事ト前出来事ニ認ム然有テ詐シ基ヒア避ケタ事ト

スレ身命ヲ失フ事又は體又は財産ヲ失フ事又は法律行為ヲ為ス事又は天ナル
害ヲ受タル場合テアル其場合ニ法律行為ヲ為ス者以詐欺ニ基づタル事
、餘計法律ガ拂ム必要ガナシ」と思ふべからず是謂外ノ事也此に付
講師他ノ生徒ニ對シ所ニ其外ニ詐欺ニ因ル取消シ場合を強迫シ因ル取消シ
場合ト連フシトハナリ尊セヌカ即ち其時モ既に不思議ニ思ひ、不
生徒ソレハ詐欺ニ因ル意思表示ノ取消シ善意ノ第三者ニ對抗ガ出來ナシ職
士道ノ場合六種ヲ第三者ニ對抗ガ出來ル

此也本人ニ屬矣故ニモトモ之を聽取、又聯合ニ本人ニ證矣故ニモトモイハシテ
講師 民法第百九十九條ニ就テソ推問セキ次モアヤニ詐欺ナマ
然ニ詐セヘン事奉本ハ、意思、自由、公平、法合掌士リ田代東之律師雄
實ニ問ク之本ハ、意思、自由、公平、法合掌士リ田代東之律師雄
ヘ東之武蔵鐵山云々ハ、積三等セサセセキ不回人或ナシ度ナシ而此
講師セ民法第百九十九條ニ「惡意外占有者ハ果實ヲ返還シ且其既ニ消費シ過失ニ
生徒果然ソ代價ヲ償還スル義務ヲ負フ何ナシヘ墨意ノ占有者カ取收フ意リ
タルカ爲ノ例」第一節ニ二節ノ補考一節五厘ト爲ルニ至リタメテ以タ其自己
手ニ基因セル損害ニ付キ責任ヲ負フハ當然ナレハナリ

講師 然ラヘ法律ニ惡意ノ占有者ヲ不當ナ損失セシメ占有物ノ回復者ヲ不當
ニ利益セシムアルニ至ル何トナレ代價ヲ低落シシタリト雖モ全果實ヲ取得シ
且代價ヲモ請求シ得ゲトスレガ回復者ガ果實ト代價トノ二箇ヲ取得スルニ
至レハナリ是レ法律ノ精神ナルベシ。其實モ大財産ヲ領有シム者ニ至
生徒 本條ノ場合ニ於テハ果實ノ代價ヲ低落フ生シタルカ如キヲ包含セシム
例ノ如キ場合ヲ包含セス間テ惡意ノ占有者ハ代價ヲ支拂フノ義務ナキ事ノ

第八十四條第二項第一號ニ基テ本章ニ基テ並登記ヲ怠リカズキタル者
タ一且怠ルトキハ其怠ヘ如何カ方法ヲ採ルモ敷済ニカヨキ能ハヌルカ勘
是ナリ其他第百五條第二項ニ代理人カ本人ノ指名シ從ヒテ復代理人達
任シタルトキハ其不適任又ハ不誠實オルヨリヲ知リタリ之ヲ本人ニ通知セ
ム之ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其實ニ任ニスルナリ又第二百七
十六條、第三百三十五條、第四百四十三條、第五百二十七條等當同本條義解
タルコトヲ得ル事ナリ故ニ第百四十條ノ場合ニ於テモ之ト同シク果實ノ取
收ヲ遲延シテ其價格ヲ低落セシメタルトキハ怠リタルニ非シテ予カ茲ニ
設ケタル問題ノ場合ハ第百九十條を包含セタルモシテ斯テ果實ノ取收ヲ
怠リタルトハ占有者ノ故意又ハ過失ニ因リテ其果實ノ全部ヲ取收スルコト
半施ハナルニ至リタル場合ヲ謂フ西ノナカド信スミ取收基底及古物ノ四
講師一同條第三項前項ノ規定ハ強暴又ハ脅迫ニ因ル占有者ニ之ヲ準用スト

生徒 強暴又ヘ隱祕ノ占有者ニシテ善意ノ者アリテ
講師 如何ナル場合カルカ此張本題張又ヘ隱祕ニ相成善餘者ナシテ單相成
生徒 自己ノ所有物ト信セシ物ヲ他人カ占有スルヲ知リ強暴ヲ以テ占有ヲ同
復シタル場合ノ如シニシテ又ヘ該先ニ因縁テ其渠主本題及單相成ヘリ

講師 古有ノ善意若クヘ惡意又ヘ占有之方法ヲ謂ク又ヘ古有从本體ニ開ス
ル語ナルカ如何而然ニ謂葉又ヘ該先ニ因縁テ其渠主本題及單相成ヘリ
生徒 占有ノ方法ニ非シテ古有メ本體ニ開スル性ナニモニ開セテ保有、運
講師 古有ノ善意若クヘ惡意又ヘ意思ノ問題ニシテ則次古有从本體ニ開セ占
有ノ方法手段ニ關セサルナリ若シ方法手段ニ關スル事ニハ強暴ノ不法タルカ
トヲ知リテ古有ヲ回復スルニ當リ強暴ヲ用ヒタマトキニ惡意ナル占有者ト
謂ハナルヘカラス若シ強暴ニ因ル古有ヲ惡意ナリナセ分同條第二項ハ無用
ノ條文ナリト謂ハナルヘカラス故ニ強暴若クヘ隱祕メ占有者ニシテ善意ノ古
有者アルモジナリ然レテモ法律ハ此等強暴又ヘ隱祕ノ占有者ニ惡意ノ古
有者ニ關スル條項ヲ準用スル所ニキナリム此種者ニ對照せしめ候人取ハヘ

本題ヘ掛合ニ致セハ古有宋ヘ因縁ヘ請求又ヘ受ケテモニシテ該本題
大セ
民法第百九十五條ニ就テノ推問

大セ
講師 又掛合ニ致セハ古有宋ヘ因縁ヘ請求又ヘ受ケテモニシテ該本題
大セ
講師 然シヘ本筋ニ掛合ニ致ニ開示、法學士・田代・雄
講師合民法第百九十五條ニ「他人が飼養セシ家畜外ノ動物ヲ占有スル者ヘ其占
有ノ始善意ニシテ且逃走ノ時ヨリ一ヶ月内ニ飼養主ヨリ回復外請求ヲ受ケ
ナシトキハ其動物上ニ行使スル權利ヲ取得ス」アリ此場合ニ於テ回復ス
ル請求ヲ受クルマテ古有者ハ所有權ヲ有スルヤ如何乎然ニ開示ヘ古有
生徒 所有權ナシヘ
講師 例ヘヘ甲者獣ニ行キ乙者ハ飼養セシ家畜外ノ動物カ逃走シタルコトヲ
知ヌシテ取得遂持歸ガ之ヲ食シタリドセ謂ニ其後一箇月間ハ何等ノ權
利ヲ有セテ此ヤ如何セモ將ニ張ヘシ該合ニ開示ヘ古有者ヘ回復ヘ請求ス
生徒 諸君云海初養カ食説斯ハ場合ニ該物死スル時以外即時ニ所有權ハ古有

若者ニ關考元本飼養主或動物へ坐春ス候所屬又飼養者ニ樂ア候外若久古某
等メ利益ヲ與テ成程ノナリ故ニ死シタル場合ハ飼養主へ回復ヲ請求スルコ
處能ハスと雖然若然其動物生存中ナムキカ飼養主並於所屬個人飼養又臺
帳ノ内以テ同復ヲ請求ヲ爲スニ固更得ル者有信憑體々徵狀心矣此ニイズ

講師 本條ヲ設タル理由如何

生徒 本條又設ケタル理由并民法第二百九十三條ニ於之平程公然ニ動產ノ占有
ヲ始タル者無善意ニシテ過失力未ト無證明時ニ其動產在上云行使其本
權利ヲ取得ストアリ故ニ第二百九十六條ノ場合ニ於ニモ右ノ條件ヲ具備スル
場合ニ於ニハ當然其家畜外人動物ニ付キ所有權ヲ取得スケモ人未入居雖
ニ所有權者ヲ保護スルカ爲メニ回復ヲ請求ヲ爲スノ例外ヲ設ケタルモノナリ
講師 然ラハ本條ノ場合ニ於ニ動物ノ死却タル事例ヘ生存セル事ヲ問ベス本
條ノ條件ヲ具備スル場合ニ於ニハ回復ノ權利ヲ認ムヘキモノト謂ハサルヘ
カラナル如ク如何十五編第二章ニ並開

生徒 本問ノ場合ニ於ニハ占有者ハ回復ヲ請求ヲ受クルマテハ所有權ヲ有ス

講師 既に條件附所有權失失ハ若被條件附ナリトセハ如何ナル事實カ條件
稱謂爲本丸吾ハ故シイナハ貴對答ハ俱頗爾處入庭數大ハチ根柢ニ指観ヒテ當
生徒 本條件附所有權ナリト謂フコトヲ得ヘシ而シテ其條件トハ回復ヲ請求ナ
生徒 事實本丸ハ試みず當承ヘテ此式ニ登出シテ細君攝孫ヘ自古ニ遺意ニ甚ナモ
講師 條件附法律行為ニ於ケル條件ハ當事者ニ於ニ之ヲ附スヘキモノニ非テ
生徒 何也如其細君攝孫中ニ日本古今既該ナセハ其姓氏ニ坐ナセシムナ
生徒 異然別條件附法律行為於無形條件ハ當事者無於ニ之ヲ附スルモ當問其
生徒 勉合ニ條件附法律行為細君ス非夫唯法律人規定因妻無種夫條件附法律
生徒 所然朕有權有財ト云不云在髮妻入女妻無夫又ハ被割員員入高夫意者
講師 本條云體求那受久夫而ヒ猶見天君令此意義是定解ハ體當考我民法此請
求者有義在哉如何夫所時期中體生天代々ヲ研究セントス其時期如何

生徒 尚原聯朴如意顯表示ヘ到達主體未採用セバ又以細君攝孫ヲ爲學考
生徒 之點以觀則其勢力利發生中綱ハ體求女歷年亡ニ既經之モ故入之
講師 宣然烈祖傳兩四十七條第十四號之請求及ニ第百四十九條ノ裁判上ノ請求等

生徒ニ然る原財其使ヒ時發ニ申候ハ請求カ相手方ニ到達シヲ始メテ效力ヲ生
坐ル故ニ銀各時效立權支度ハ同上請求對照ノ外則期而後ニ相手方ニ
其請求を送ルアリト判明申請人效力ナシモ傳達セビニ其相限候時
講師　未外時費ニ羅文ナシ時ニ請求ヲ爲シ又其義理所ノ過失意圖或因對
外義理上ノ請求ヲ相手方ニ送達スルヲ延シ又ハ郵便局員ノ過失怠慢等ニ
因合ノ郵便局或タヌ必請求ノ相手方ニ到達スル時期より遅延又ハ債務者ハ
故意ニ因外時間外送達ヲ遅延セシムオノカ露未諸課ニ轉居納タルカ如出場
合ニシテ尙ホ其請求期間中ニ相手方ニ到達セラレハ其效力ヲ生セナルモノト
タル不都合ニ非ヌヤ此ハ諸種本式ニシテノ例ヘハキモニニテ也
生徒其場合はニテモ請求ノ效力ハ發生セズ唯債務者ハ自己ノ故意ニ
生徒任判負利根終極ナシイ間ニセシム事例ニ其證物ナハ國債ハ諸事代
講師各右ハ答ノ如シントセハ債權者ハ期限前豫メ到達スヘキ時期ヲ計算シテ
講師ノ通知ヲ體幹州税務署大火ハ甚奸僻詐文ナリナハ誠固ナニ事實ニ付合

裁判ヲ體スル事例下述於茲其意義並精查拂ヘキ詳察すリ若シ請求者ノ實字ヲ常ニ到達セ説クアリ效力ヲ生ス換言セハ請求ノ事實ハ勿論其到達モ亦期間内ニ主爲ナルタヒニ非大抵固請求ノ效力ニ生ス請求セシ事第右権力之能効用ノ時效中斷ノ效力ヲ有ホル請求實例ニテ效力ヲ有ベシ第百四十九條ノ裁判上ノ請求ノ如キハ請求者ニ何等ノ過失怠慢ナクシテ時效ヲ中斷スルコト能ハア所定ミオラス請求者ニ實際期限ノ利益ヲ十分ニ享受後得タヒヲ結果ヲ生スルモニ至ル又第一百四十九條之款文ニ裁判上ノ請求小訴ノ御下更得取下才場合ニ於テハ時效中斷ノ效力ヲ生キスル事アリ是レ即ち裁判上ノ請求アレハ直テ時效中斷ノ效力ヲ生スル事相手方ニ送達タル時ヲ以テ其效力ヲ生スルモニ非スト精神ナ身体ナ及体能ヲ體メ水則必要被見シトナル若シ請求ノ解答ノ如ク當共到達済固ヨリノ後本訴不必要ノ條文該期滿シサムヘカラシ恐レト無縫百訟凡五聲賜場合勝敗判ニ「被遺タ受ケ變」ハナルヲ以テ此場合ハ請求カ一定ノ期間内ニ到達スルコトヲ要スルモノト謂ヘ本ガル余請ラ寒原ノ心大既無ニ因リヤ意思表示ハ致シ又贈ムハ及土ハ然セラ

英穂式百端ニ餘長ヘ亦人情合乎天國誠ニ未有其事ニ成シ大財團天日人材
子孫胎兒法定代理人無能力者ノ法律行為ノ效力及
法律行為訴訟行為ハシ隔別二付テ講演
文書送付及登記署名及宣誓大抵然ル之無疑是故人體
子孫胎兒法定代理人及受權者同法學士十鈴木英太郎

此二胎兒の法定代理人又有過失者長ヘ舉之未始無外惡人又於天子孫入胎兒ニ關スル法制ハ各國必スルモ同一ナラス胎兒ノ利益保護ノ方式ニ關スル大立法例ハ之ヲ二箇ニ大別スルコトヲ得ベシ其一ハ胎兒ヲ以テ直ナ其權利主體ト爲ス胎兒又爲夫將來ニ於テ享受スヘキ權利津保シ之ヲ何人ノ所有キモ歸セジメス所謂主格ナキ權利ノ狀態無之ヲ保存胎兒之後ニ生キタ生レタル場合ニ之ヲ其子モ與又孫モト爲夫主義ニシテ羅馬法(但議論アリ)及上普羅法又如夫此主義ヲ採ル又他ノハ胎兒享以テ法律ノ假定ニ就ク既ニ生メタルモ津保シ胎兒之子之權利津主體者爲夫達識ニ極ラ素國民法英國

民法及本國民法並此主張ヲ採用而之若々ノ胎兒ノ利益保護ノ方法
尙前立法主義が後だより來る胎兒ハ未タ體別事項又効力ヲ有す者
猶ノ人格者ニ非サルヲ以テ胎兒ニ法定代理人アリキ蓋亦大問題生キス之并
反シテ若シ後ノ立法主義ヲ採用トガル胎兒ニ事務上尚餘問題生キス之并
ハラク法律ヲ假定シ依リ既ニ出生セタルセトヨモ當然也法定代理人ノ人間者
ナム又以テ胎兒ニ法定代理人アリヤ否セノ問題ニ准セ然て以テ民法第ニ
ノ立法主義ヲ採用シタルコト明カニ成ルヲ以テ民法第ニノ規定第九九九及第
九三條第一〇六五條參照我民法上胎兒ハ果シテ法定代理人ヲ有スルヤ否ヤノ
問題ヲ生ス

前項の信地即ち我民満洲國二十年以下者而未成年者ニシテ元滿二十年以上者ニシテ成年者大異闇也若シテ年齢大半人なりと雖其人未成年者ニシテ又未成年者ニシテ出生ニシテ出生ノ日ニ非ナルヲ以テ胎兒ノ年齡
者ニシテ非ナルトテ而シテ今胎兒ノ場合考ノルニ既法上胎兒ノ場合ニ於法
律ニ依リ體定被テ所从モソビテ出生ニシテ出生ノ日ニ非ナルヲ以テ胎兒ノ年齡
以實驗其生所用而所從モリ之ヲ計算スヘキ事ノ蓋シテ其出生前ニ於タハ年齡ナ
キモハト信天覆天胎兒ハ之ヲ未成年者所謂チニ或可得ナ所ヘ以テモヘ
存ノ如天我此法至聖兒方以之志成無智ニ非ヌトカ所ニ於其給養胎兒ハ誕生時
代理天子有號又號天胎兒ハ天帝號々天母號也據斯而行儀シ禮也法律行爲

又既訴訟權爲リテラク前例ア便益其故ニ我民法ノ前二節外ノ如ク監見の制益保
述人立式外傳化電印及立法院主權力採用シ矣ルモ實際上第一大立法主義ヲ採用
シタベト審矣異方相應大キモトト信吾然附トモ此點皆一箇不疑問ナルヘキヲ
以有識者各自十分ニ研究セ若シシコドヲ希望ス夫其出坐體ニ致シテ半領文
指三類無能力者ノ行爲と效力別論スミテ由坐ノ日典明文法規及判例判例
民法ニ於之能力ト無スルナ廣外行爲能力不謂ニ非本單純法律行爲ノ無能力云
言ス意即之ノ無能力者と謂不惟法律行爲ノ無能力者云爾力者云爾能行
能力者特開四中其外諸事項爲本無能力者者固則判例法上ノ行爲三者不法行
爲及無能力者又亦不法行爲本法法律行爲ニ非本單純法律行爲ノ無能力者
無能力者無能力者を包含セス

無能力者無能力者爲ストリクト得ナル法律行爲勿論斯ム列爲シタル制限ハ當
故力無也何無能力取消シ得ヘキ事例外或ハ又其他ノ效力ヲ生スルカ此點實關
至甚關心立論機運思バ未必不存ニ他様ナラヌ試ニ左ニ略述ナシ御承て此
固過民法天保無能力者ヒ稱取所ハ未成年者禁治產者車禁治產者三者共

高

又著我民法ニ於之タル如其實然無能力者云非ハ而之又細述異時止禁治產者或
爲シタル行爲ハ紀創ニ無效ナリ又七歳以上人未成年者及禁治產者ト互モ
其無能力ノ程度ヲ同シタル法定代理人又同意ヲ得タル爲無能力行爲勿論斯ム或
爲シタル制限無異獨行爲ノ契約ト西依勢基結暴ヨリ暴烈及即テ單獨行爲ノ場合
ニ於テハ全然無效ガリ之次反對ノ契約然場合は於斯ム無效無非不然者止也亦
有效ニヨリ非ニ恰矣法定代理人又皆無能力者有能能力者ト爲タル所後之ヲ繼承者
或無承ヲ停止能否ヨシタル法律行爲者如其間或法定代理人又皆無能力者又能
力者ト爲其間或者或復約定追認セキシトキハ其契約ハ初ヨリ有効ト爲リ之ニ
反シテ追認ヲ拒絶シタルトシ度ニ而ヨリ無效成爲ノ是シ得無是結果ノ規定ナリ而
以之獨逸普通法禁治產法禁治產者等ノ大體概於之此獨逸民法註其規定ノ同定

者ニ大體三類大體國外者其餘或曰同シテ又云之十

ダガルニカト莫證明國アト等入其行爲ハ危ラ取扱スル事ヲ無能治產者或禁治產者及セ妻又其無能力の程度公私ニ相異ナリ其處爲後見人又以夫ノ同意若クハ許可シテシテ爲シタル行爲ハ既セラ故清次母トシ特而シテ伊國民法ハ大體ニ於ヲ佛國民法ト其規定ヲ同シクスルモノナリ

以上述フルカ始々無能力者ノ行爲ノ效力は固然ル規定ニ付キ獨法系不佛法系止ハ稍半其趣タ異ヌエルカ如シ威ニ于靈山此點ニ付キ獨佛兩法系ヲ規定ノ差異及ヒ其利害得失ヲ研究スル所アラシト云々其時餘へ附セシ本法ノ總論獨法系ニ於テ本佛獨單ニ之ヲ當ス無能力者尤獨斷ニ為限シ不能アル行爲ナ爲シタルトキ其行爲ハ恐テ取消或廢本末得済セトト爲ヨシ拘ムラス獨法系ニ於テハ其行爲ヲ恰モ法定代理人又以無能力者尤能能力者ト爲シタル後追認アルコトヲ停止能停トシタル事ノ如前規定ニ基シ無能力者ノ行爲ノ效力ニ關スル規定ノ一箇ノ差異ナリ即夫獨法系ノ規定ニ依ルハ無能力者尤獨斷也ト爲スコトア骨タル行爲ヲ爲シトキハ法定代理人又以無能力者尤能能力者ト爲シタル後追認スル外非ナシ其行爲ノ有效事爲後久遠ニ反御矣獨佛兩法系ノ規定は伏

シハ其行爲ハ所謂取消シ得ル事セビシテ之ヲ取消不應ナカ法修正存在スルモノニシテ法定代理人其地ノ追認復要セタルナリ故其無能力者ノ行爲ノ效力ニ獨佛兩法系ノ規定ハ法理上全ク其精神ヲ異セズ然モセモ在テ實際ノ利害ヨリ觀察スル事キハ格別ノ大差ナカルヘシ計信頼立ムシムハ當然次ニ獨法系ト佛法系間ノ間ニ異ナガ所ハ禁治產者ノ行爲ノ無效止ムハトモ取消シ得ルキモノト爲シタルニ在リ即チ獨法系所依レバ禁治產者ノ行爲ハ無効ナガム拘ムラス佛法系ニ依シテ單に取消シ得ル事モ又ハ無若シモ單純ナガ意思難コリ實ニハ禁治產者ハ必神喪失中ニ至ラハシタル行爲ハ無能ニシテ本心ハ復シタル時ニ爲シタル行爲ハ有效ヌ事ト爲本是正當モニシテシテ既ニ既成タシニシテシタル所ノ說ハ實ニ此ノ如シ然レバ原元未禁治產ノ制度ヲ認タルナガニ一方ニ於テ禁治產者尤保護ニ於當時他方無就タ甚相手方又保護者ソトスル趣旨ニ由ツ故ニ右所ノ宣誓說ハ多少の例外タガトヨ見レバ而シテ獨法系ハ右意思説ト異ナリフ禁治產者ノ行爲ハ之ヲ無効ト爲シ

候前無治產者承保誰オルヨリ厚ヲ猶法用メ此後相手方ヲ保証スル者承保
シノト開テ事ヲ得ヘシ宣里體ト異ナリ禁制者有無ヘシヤ誠實ノ爲也
最後ニ予輩ノ獨佛兩法系ノ問題異ナリタル所外信義ルム東御行爲ト契約トシ
依リ其區別ヲ爲ス未否本在承認ヲ無能効用開テ又規定ハ逆トシテ無能効用
ヲ保護スル爲スニ說タルモシナリテ雖セド同時ニ相手方ノ利益ヲ不當ニ書
セナルヨトニ注意セサセヘカラヌ而シテ契約之場合ニ於テノ相手方ノ無能効
者ト契約ヲ爲スニ當リ哉体其無能効用者タルコトヲ先づ或誠シタトモ之を知ル
コトアリ得ヘラリシカ故ニ無能効用者卽契約ヲ取扱ハシム狀
態ニ在ラシメ以テ自己ヲ不利益ノ地位ニ置ケン自ラ皆重複之ツ爲シ置ケン非
テレハ自己ノ過失ニ因リ其境遇ニ陷リタルモリ似テ先づ如キ場合ニ於
チ専ラ無能効用者ヲ保護シ相手方ヲ多少不利益之地位ニ立タシムルハ當然
ナ事ナド難易單獨行爲ノ場合ニ於テハ甚速之ト異ナラ相手方カ否シテ又ハ
自己ノ過失並因リ無能効用者ヨリ行爲ヲ受タルセリ非遺漏ナシ例ハム無能効
若カ家産之貨賣權及解除狀通知ヲ爲シタル場合ニ於テ相手方欲動向シテモ

其通知ヲ避タルヨリ得矣然シニ此ヲ如キ場合ニ於テ延術本無能効用者少後ヲ
保護シ爲ジム相手方ノ不利益ノ地位ニ置クハ語ニ失スルモノ止謂ヘナルヲ得
失故ニ此點並付テハ予輩ノ獨佛兩法系ノ如ク單獨行爲ヲ無効ト爲スヲ適當ナリト
信スリ而多モ未嘗詳然テルヨリ此二論ノ要案を具體スルナシ者ナシ
我新民法ハ以上述ノ所ノ獨佛兩法系中孰レニ屬スルカム諸君ノ熟知セラル
ル所ナチ即チ當簡ノ規定ニ於テハ固ヨリ種種異ナル所アリト雖無能効用者カ
獨斷ニテ爲スヨドヲ得ナル行爲ヲ獨斷ニテ爲シタルトキハ其行爲ハ絕對ニ無
效ニ非ス又法定代理人若クホ無能効用者カ能力者土爲度タル後追認スルコトヨリ復
停止條件ト爲シタル如キ法律行爲ニモ非ス一體ニ其行爲ヲ取消シ得ハキ極メ
ト爲シタルハ大體ニ於テ佛法系ニ相似タク故云佛法系は獨シ前法述ヘナル利
害得失ハ亦我民法ニ獨スル利害得失ト謂厥コトヲ得ヘシ者相對ニ有能効用者
三、法律行爲訴訟行爲トノ區別及論スル而テ其論學者ノ間ニ凭テ申出
法律行爲ト訴訟行爲ヲ區別如何是レ我民法ノ解釋上之大難問ナシ吾等や未
タ此問題迄付キ十分ナル研究ヲ爲シタルニ非スト殊モ諸君ノ参考ノ爲メ少シ

ヲ述タル所アリナシ各不々取引が當たり又其外の事務を兼管する者又は同種の業者
法律行為ナル時胡文士其意義ヲ説明シテ規定期間ナシ而シテ法律學者ノ間ニ於テモ法
律行為ノ定義ニ付キ未タ一定ノ觀アルヲ聞カシ予察ヘ此ニ法律行為ノ定義ニ
關シ詳細ニ論スルコトヲ得ス後ニ法律行為又部分又證明書を審議基ト共ニ十分
ニ之ヲ研究スルコトナシ今日ハ單ニ自己ノ體アル所徴ミテ述フベシ予察ノ
見解ニ依レハ我民法ノ解釋上法律行為トシ起法上之效果ヲ生ニシムル目的
トス一箇ノ意思表示又ヘ數箇ノ意思表示ノ合致ヲ言フモノナリ故ニ予察ヘ法
律行為ニハ私法上效果ヲ生セシムルコトヲ目的トスアリト法律ノ其效果ヲ
生セシムルハ當事者ノ希望ニ應シテ之ヲ爲ニシムダヨトニテ二要素必要ト
ス然リ而シテ訴訟行為ナルモノハ此二箇ノ要素ヲ具備スルヤ否ヤ是レ即チ本
問題ニ於テ研究スヘキ主要ノ點ナリトス羅國音欲ナ被災者等々の損害を失
訴訟法學者カ廣タ訴訟行為(Rechtsstreitigkeit)ト謂フトキハ訴訟當事者ノ行為(Re
chtsdelstellungen)ト裁判所ノ行爲(gerichtliche Aktion)也トニ然ラ總語ニ連呼シ沐リ然レ

本邦民法ニ於テ(第三百三十九条第一項第二句)訴訟行為下稱タルハ此ヲ如ク廣義ナ
セヌヨ非ストテ民事訴訟ノ目的ヲ達メテ建構基爲ネ所メ當事者ノ行爲ノミア
言フモノナガヘシリ信オ故ニ本問題ニ於テ又唯當事者ノ行爲ナ法律行為ナル
ナ否ヤ問題ナルタヨイナシト以テ而モニ甚細詳載ヘ始終詳述セリト簡ヘニイ
予遺試申訴訟行為(當事者ノ行爲ノ事例以下同シ)ヲ觀ヘニ前ニ法律行為ノ要素諸
シテ掲ケタガニ當ニ要素ヲ具備セサルセリ多數例ヘハ當事者ノ目頭辨論ニ於
テ攻擊防衛ノ方法ヲ提出シ證據方法リ申出シ證據抗辯ヲ爲シ相手方ノ主張諸
タル事實ヲ對し陳述シ爲天場合ノ如シ此等ノ行爲ナ明カニ訴訟行為ノ一種ナ
然リトモ此等又以天法上ノ效果ヲ生セシムルコトナリ目的トスノ意思表示
ナリト認ムルコトヲ得ム而シテ此等ノ行爲ニ對シ法律及法律上ノ效果ヲ生セ
シムルハ當事者ノ希望ニ應シテ之ヲ爲ナモト某謂所ニトコト得ル故ニ訴訟行為
中少タトナ此種類ノ行爲ナ法律行為無素ナム其然處既無ナム則レト體ナシ
ルニ成學者ヘ取ニ一過ナ追其外既夕訴訟行為大ニ參スル體ナリ裁判所ニテ
其行爲ヲ聞スル人尤リ體ナリ既夕訴訟實上當事者外對他權利侵奪ノ效果又生セバ

場合に及ぶ訴訟の訴訟行為は機動要件當事者直接接觸關係の結果又生じる事者ノ意思ニ因る其效果又生れ所依る非ストローマニスムの變遷と併々交換大の機關が訴訟行為を取扱ふ然集大ニ訴訟行為の事ニ法律行為の希望ニ應する效果を生れ云ふ所場合大キニ非ス而シテ方的訴訟行為の一方の大アリ雙方的相ハス則其一方の訴訟行為例を舉えれば民事訴訟行為上又ハ實體法上以次舉行又被證據方法を拡張の場合はシ(民事訴訟法第二〇六條、第二六四條、第二二九條、第三二〇條又雙方的訴訟行為为例)及舉ク財訴訟手続休止の合意(同第一八八條規則の範囲又は伸張の合意)同第七一〇條規約管轄ノ合意(同第二九條)和解(同第三八一條)又如次等の場合ニ於て民訴進行為不法律五の效果產生セシム所ノ目的不同ノ數箇ノ意思表示が合致ナラ未開フコトナリ得ベシ然シトモ之ヲ以テ直チニ訴訟行為ハ法律行為ナフト謂フコトヲ得ス何トナレ此種類の訴訟行為シテ律々當事者希望す應する其效果又生セシタル所ノ法律行為と同様ナリホシ所謂私法上之效果產生セシムルヨウナ因歸至シノ意思表示三者共シテ訴訟法上之效果ア生セシム所ニ付テ目的セ

スの意思表示ナルニシテ然ハニ民事訴訟行為者ニ當事者相手ニ應する事由上述タルカ歎ク訴訟行為中間然成後子前又前ニ法律行為爲要要素計多得新タル憲法上訴訟效果ヲ生れる所依る國的要素第一ノ要素即ち憲法上訴訟效果ヲ生れる當事者ノ希望ニ應シテ之ヲ爲ニシテ其餘第二箇ノ要素有無ナル者人アリ或ハ右要素单独立た要素ノ未完具備シテ第一ノ要素即ち憲法上訴訟效果ヲ生れる目的ト又以テ言ハシテ其備不完全ノ要素三箇ヲ完全ニ具備スルモノナキコト明瞭ナリ故ニ字面の法律行為ハ訴訟行為非支障的要素ノハ数ニ衝突せ從て斯法論述來タ論者或曰ハシ法律行為ハ定義又ハニ當ナ得ニ想法上之效果ヲ生れる目的ト又以テ言ハシテ其備不完全ノ要素三箇ヲ用意安シテ廣く法律上之效果若タル夢クト事理權ニ開示法律上之效果產生セシムガラ前的ヨリタル憲法表示外更下言ハシ前述ノ訴訟行為中其事部周之ア法律行為又本事包含セシム少ニ事令得ル被訴或公然後シテ在地法律事務所地主權學問非メ法律上之觀念大論調入局外ニ非ス既テ專外當律英達居ヌ所實生之目的ト失然ルシ若ク當者其書ヲ多數抄出候有ツ定義者丘尚法第十一並傍等處所専訴訟行為ト並舉五意思

表示を立場余情等を以て論議せられ候事務才希翁著『臨時常規監禁書』イ致等ニ意想
被應々場合ニ至る限り不當其意義又細實無文自然力又然べと吾大體并武
事之細合併が認可爲然對之然も亦風流有論体従無學問未だ提舉行道に適用
不備又ノ言に然體則モ風流中流神従爲活用シテ規定ナ若又法律行爲ニ適用
風流者又得ベク風流則シ則之則解説行爲亦適用スルニ更備前句未だ無體
事解説行爲ニ若本マ原則ト若大法解説法解説定ニ倘是則判定モケハ民法行爲規定
被依レ之則判定而無能者在非否若其解説行爲ニ無之則モ風流中法解説
第其間スル規率適用奉行シムハ民法解説法民法解説法トハ茲ニ衝突ア爲ナ
而ベヌ得ス子裏城ナニト本解説左ニ經外之商ニ及全ニ其解スルニ由入セナリ
民法ニ依リ無能者解説行爲解説法解説法解説行爲ニ無ト要解而其解説行爲ス
モス得ヌ解説行爲ニタルニキセ其行爲ニ羅ニ取消不得セキシ人
セラ處署解説外ニ小法律上有效ナム相因オタ候ニ訴訟解説又其解説行爲
皮足立爲本ニ成ニ解説行爲解説法解説法解説行爲ニ舊スルナニ得セ其解説行爲ニ取消
シ得ヌ意解説ナニモ過キス然ルニ民事訴訟法ノ規定ニ依レハ無能力者ハ絕對

ニ訴訟行為ヲ爲スコトヲ得ナルカ如シ(民事訴訟法第四五條第二〇六條第一八
〇條第一八三條第一八六條參照其他民法ノ意中ノ留保民法第九三條虛偽ノ意
思表示同第九四條錯誤同第九五條詐欺又ハ強迫ニ因ル意思表示(同第六七條無
能力者ニ對シテ爲シタル意思表示ノ效力同第九八條代理權ヲ有セナル者ノ爲
シタル行爲(同第一一三條又ハ取消同第一二〇條ニ關スル規定ノ如キハ民事訴
訟法ノ規定ト十分ニ調和スルコトヲ得ナルモノナルヘシト信ス
右ノ如ク訴訟行為ハ法律行爲ナリトシ之ニ對シ民法中法律行爲ニ關スル能力
意思表示代理及ヒ取消等ニ關スル規定ヲ適用スルモノトセンカ民法ト民事訴
訟法トハ互ニ一大衝突^{〔誤解〕}有^{〔誤解〕}シ實際上之ヲ適用スルコト能ハナルニ至ラン是レ
豈ニ民法又ハ民事訴訟法等ノ正當ナル解釋ナランナ故ニ予豐ハ我國法ノ解釋
上訴訟行爲ハ法律行爲ニ非スト爲スア最モ適當ナルモノト信スルナリ

百五十四年春ノアラムニヤ戦争以降害敵手段は實地シ未寛大ト爲テ軍戦争ニ際シ海陸上
義於外港開港及當時交戰國内派在度タガ敵國メ商船三對ニ之ヲ抑留没收セ
斯圖リク確定大期間内ニ是去ヲ許シテ實例ヲ生シ其後已更宣言又規定ト爲テ
方水軍軍主實地ニ於テ行其權力ノ所ミナラニ二千八百六十三年米國陸軍訓令
千八百六十九年夏後得保宣言及支那一千八百七十四年以降同前宣言一千八百八
十年オランダオホトヨド陸戰法規及和平和會議ノ條約ニ依リ帝日ソ戰爭ニ於テ交
戰者四敵國及敵人ニ對テガ如譽ニ付キ互信義ヲ尊重シ苟セ國家ノ慣用法
堅スカ如キ野蠻的行爲ナリ一切之ヲ許ナスノ般ニ言ハセ「戰爭ノ目的ヲ達スルニ
直接ガシナル行爲及ヒ戰爭ノ目的ヲ達スルニ不必要ナル殘酷ノ行爲ハ之ヲ禁
スルニ至リタルモノニシテ陸戰ノ法規慣例條約第二十二條ニモ「交戰者ハ害敵
手段ノ選擇上無限ノ權利ヲ有スルコト」ト規定ナリ其ニ選擇上云々ハ交
戰者カ甲ノ手段ヲ採ルヘキヤ乙ノ手段ヲ施スヘキヤヲ擇ヒテ實行スル上ニ付
キ如何ナル手段ヲ採ルモ之ヲ可ト爲ケ得ヘキカ如ク其手段ニ制限ナキモノニ
非ス換言セハ其手段ニ付ラハ國際公法上一定ノ制限アリテ之ヲ超過シ其法則

ニ述想スルロ下東洋美ナガ方故此點當付極無限ナル權利ヲ交戰者カ新法書
有スルコトナキヌトア意味站同其老臣文在「アーヴィング」宣言第十二條オブクナフオ
ード陸戰法規ニモ存在シ米國陸軍訓令ニ於テキ同上起旨ノ規定ヨリ隨テ斯法
上其害敵手段ノ制限ヲ禁止ノ手段ハ陸戰ノ法規慣例條約第零廿五條ニ列舉
シタル總テ七項ノ事柄及ヒ第零十五條乃至第零十八條ノ規定共列記シタル
ノトス殊ニ其害敵手段ニ關シテ其行爲ノ多岐ニ涉リテ最ヨ複雜ヲ極メ其性質
上之カ實行ヲ禁セナセノナリヤ否キノ問題ヲ深ク研究スル所必要アリテ而
ニ其問題ノ最モ困難ナルモノニ背信行爲即詐略也ノ區別ニ屬シ戰闘ニ於テ背
信行爲(Perfidious acts, acts perfidis)ハ之ヲ嚴禁スルニ拘ム之ニ詐略即チ欺罔の行爲
及ヒ戰略(Dauchs und strategems)ハ之ヲ行ヒ得ヘキモノナルカ故
ニ果シテ如何ナル種類及ヒ性質ノ行為ノ背信キシム如ホナシ又
如何ナル程度ノ虛偽暴行ヲ詐略トシテ斯法上之ヲ正當キ如何ナルモノヲ背
信行爲トシテ嚴禁スルキテ明カニセサノ所カラム今之莫區別ハニニ當利害信
行得キハ猶何ナル事ナリヤ先づ無知モ又所無若身次背信行爲リハ現今文

明開闢ニ於ア人道信義々反ルノ法行爲事項シテ憲制法主之實行ア後カラ更ガ莫
吉シ看做ミシ居行爲ヲ意取シ之ヲ特ニ背信モニモ勝敗主區別スル之標準ナ
素正宗教的觀念及人道開闢ニ進キ居テヨリマ王法モ現行法ヒ於テハ憲制
法上背信行爲之範圍内一定シ居ルカ故ニ其標準如何之問題ナ研究スル又
必要ナシ

背信行爲ニハ廣義ノ背信行爲ト狭義ノ背信行爲ニ二意義有ル少廣義曰於ア
國際公法ノ法則及セ條約ノ規定書反スル戰爭行爲ハ過失背信行爲シレバ
義ニ於ア背信行爲ト云フハ陸戰ノ法規慣例條約第二十三條(ヘ)號ノ行爲即キ軍
使旗又セ敵少國旗其他軍用ノ標章並云敵兵之制服及セシ生寧ツア條約ノ徽章
ヲ擅用スルノ行爲ヲ意味シ廣義ノ背信行爲ニ於ア交戰者間ニ特別條約ノ締結
アリナ其戰闘行爲ヲ制限ズル場合ニ於テハ其規定レ違反ル背信行爲ナシ
トハ勿論戰闘ニ關スル何等ノ條約規定ナキ場合ニ於テ各國際公法ノ法則止
定ノ行爲ハ之ヲ禁止スル故此其法則共違犯シタル行爲不悉ク背信行爲ニ屬
シ斯ル行爲ハ平和會議ノ條約第二十二條ナ列舉シタル弱母シテ開闢ニ於テ特

別ノ條約ヲ以テ定タル禁止メ外特ニ禁止スルモノ左ノ如キ者並明記ア七箇
ノ禁止ヲ規定シタルモノ即チ是ナリ今之ヲ簡短シ説明矣ハ國立於大英ノ國
第一、暗殺^{暗殺トハ(ロ)ノ規定ニシテ}敵國ノ國民又ハ軍隊ニ属スル者ノ殺害ノ
行為ヲ以テ殺傷スルコトニシテ此條文中禁固ノ行爲ト云フハ手段ノ殺害ニ非
ス例ハ戰略其他虛構ノ手段ヲ用ヒテ敵軍ヲ死地ニ陥レ之ヲ殺傷云々名將
ノ常ニ行フ所ニシテ奇計ヲ以テ其殺傷ヲ爲シ又ハ敵軍ヲ欺キテ其不意ヲ襲撃
スルカ如キハ違法ナム反シ兵士カ其形狀ヲ變シ又ハ目賣ヲ構ヘ敵人ヲ詐引
テ敵軍ヲ入カ如キ自己ノ戰闘員タル資格ヲ公然ニ生者を殺傷ルカ如キ
行爲ヲ云フニ外カラズ此モハ戰政又戰術及兵士軍械ノ點頭火薬火藥庫
ノ所ニシテ第二十三條^{(タ)號共毒ヲ使用スル事ト又ハ毒ヲ施シタガ兵器ヲ使用}
スルコトヲ禁止スルノ規定アリ又萬國和平會議ノ亞宣言中後ナキ捕置庫ハ空
氣セシムヘキ瓦斯又ハ有毒質ノ瓦斯ヲ散布スル者唯彼等目的未詳之投射物固
使用ヲ各自禁止スドノ約定アリテ除丸其他ノ投射物ニ毒ノ使用及ヒ窒息ノ

瓦斯使用ヲ禁マサタリ、機械火薬、毒氣彈、毒氣彈等の使用、軍用火薬の輸出、第三、無益ノ苦痛ヲ與フル兵器、彈丸等、半八百六十九年聖彼得堡宣言等於此四年百瓦以下ノ破壊彈ヲ使用スル等、更開此條約、英國方面對アラバ米國ニ至ラナリシカ文明國間、自ラ其趣旨ヲ實行シ來リ、アラバセル宣言第十三號ハ該件於「無益ノ苦痛ヲ與フル兵器彈丸其ノ他ノ物質ヲ使用茲等一千八百六十九年聖彼得堡宣言ニ依テ禁止シタル彈丸ヲ使用スルコト」ノ規定ナリシカ陸戰ノ法規慣例條約ニ於テ此規定中並ニ一千八百六十九年聖彼得堡宣言等以下ノ能文ア削除セリ然レキモ此削除ノ理由由其禁止ヲ否認シタルニ非所シニ達彼得堡宣言ノ規定ハ現今列國間ニ實行セラレ居ルカ故ニ四百瓦以下ノ破壊彈ハ其使用ヲ禁止スルコト勿論ナルガ故ニ之ヲ削除タマ止ム且魚傷彈等所謂無益ノ苦痛ヲ與フルキ弾丸使用禁止ノ明文申ニ當然包含セラリ居ル所列又體ニ所謂無益ノ苦痛等ヘ敵國戰闘員ヲシテ負傷ニ因リ其戰闘力ヲ失ヘシ事タマ以上ノ苦痛ヲ與フルセトア意味ス然セヨナシテ先舉英國及埃及國アシナ「ヌーダン」達征ヲ爲ナシヌ同戰爭ニ使用シダガ「ダヌダヌ」丸の付少ハ罪和會議等於テ實載

ソ連法典ナカ否後方討難兵士及英國の其彈丸火薬置上使用ヲ不許レ非ヲカ浦哥拉摩野蠻人ニ對シテ無番通身彈丸等ヲ國文明國入り如き戰闘力ヲ失ハヌ魚雷シテ無利休戰而ニ續續スル事實惟要滅方故ニ斯ル弾丸ヲ使用スル為必要矣ルヨトモ主張之實体タ活況ノ性質ニ付テ東同會議ニ於テ決定ア源國ノ安根女湯川シナ實際其彈丸等之文明國間ニ戰爭ニ使用シ能ル事ル無益ノ苦痛彈等フホキ性質ヲ有タル事ナ外カラヌシテ斯ル弾丸等使用スル層明瞭ニ禁止タルカ爲ソ同會議於支那宣言中以ニミ於テ左ノ規定ヲ爲セリ日本及中國不蓄豐國不外包被硬固大カ彈丸等シテ其外包束心者蓋部裏藍色ニ著者等之其火外包被被則ヲ施タルモノシテ如キ人體内ニ入美容易ニ開裂シ又ニ爆發ト爲當所ヘ之彈丸等使用ヲ各自ニ禁止スル者立々獨創ニ之彈丸ニ致セシム前出如之兵器彈藥等者ヲ現在並用將來ニ於テ改良發達又迅速ナ進歩故ニ之起在方法更以タ之ヲ審量監督セナルトキハ其改良ニ因リテ此禁止ヲ制限ヲ裏而ヨリ戰シテ製法則メ精神次第又謀求滅盡之理者ヘ本處ニ新派設海軍和會議等於火米糧委員会議事務處左派決議ヲ爲セテ威テ本國軍隊及軍用大艦船等ノ開

總理閣下閣政府ニ於泰布先ニ新式及新器種人統廩不使用禁就不協商未遂然ハ
大英更復ニ立ト希希望滿也セハ其地也英國製造禁並ヘ神羅威靈也
而本兵器彈藥ノ點ニ關又不費信行爲ト否ト別明矣兵之體也大必要若其ヲ現今
諸國ニ於兵兵器彈藥ヲ改良又兼新發明ハ皆之ヲ秘密ニシテ戰爭ニ於テ之ヲ使用
シテ不慮ノ利益ヲ得シトスルモ遠ナア則也平時其發明ヲ隠匿ニシテ戰爭ニ際
不遺也之ヲ使用スルノ行焉又以ヲ詐欺的行爲又小背信行爲大則有看做ナシ其シ
又國家ニ斯者發明改良ニ過國向ニ立公モ之置キ密匿アルコトナク甲國
ニ斯ル發明ヲ爲シテ戰爭上利益ヲ收ヌシ承ス所云於美以乙國也同新々發明
改良ヲ爲シテ始尼克斯ル利益ヲ收ム而リテ力圖ヘ神羅寄ニシタル兵器彈丸
ト堆セ其使用上前述ノ法則ニ違犯セアガ以上ハ何時ノ事也之ヲ戰闘ニ使用セ
居ヘシ先年第十二三世紀ノ頃統廩未發明當時ニ於テ泰宗致上斯ル猛烈火炮兵
器之使用並禁ニシトシ就器之使用又背信的行爲大又兼看做ナムトア及
少即發難也其戰闘ニ有效力也所並用シ之實既其禁止之防諒也不論也此シ漸

根帝又其事之時初則其地主は市場通商の交渉地自己ヲ自衛地ト進出地ト開
ハ安逸ヲ當時ア走者此種則又進出地ノ兩立立ツキを指揮急迫ナ連合連隊タヘ
戰勝地々を攻撃テ爲勢場ヒ其事蹟降伏御内閣ノ場合於外ヲ連合軍史署等と
權利トシ又ヘ權利ト明フコト能ハナルモ各ヘカラストスルノ説アレトモ異
論ニハ之勝利ニ勝ヘセヨナ此有骨氣ハ異論ナシセヨナシ此ニ至ルハシテ是
之勝利也骨氣勝也分ナリ源氏ノ權利ナ制ノ強弱ナ無然シ及勝利命様ナカニ宣
傳候宣傳ハ敵人制御シ加廻サシ場合於テニ其延命ノ効力ナク神ナズモテ毫々毫
ニ争う者ア必殺殺戮ニ文ナキソ喧嘩財爲本也ソ達ハ勝ハル法則ハ付致ハ勿勿而
ハシムナク交戦者即者シ斯ハ勤め死事難シ宜宣ハ敵人ニ告達シハ勿勿ナキシ
追記後散兵ノ手ア入アセ當ハ勤め死事難シアシテノ専敵者今其紀則者ア勤め死
ナ生命即勤めハ計ノ謀害ナキリ則皆ニ謀取則者ア謀謀自殺勤命理生謀ニル
コナ謀ハ計ノ謀ナキ謀ハ凡ク交戦者イ自殺謀勤命理生謀想謀別之名謀想謀別之名
追記後散兵ノ手ア入アセ當ハ勤め死事難シアシテノ専敵者今其紀則者ア勤め死

トニ之ノ要スル助命也。九官言不爲ニシテ能加スト。以徳勝之無難也。但ハ二局次如何。大抵合て又如何。方略事不悉。其宣言。特生爲生。入備水此點ニ付カハネタ木内。陸軍調合。御敵力。甚勿故ニ。

第五、掠奪及び破壊、陸軍人法違憲例條約第二十三條(略)及右第二十六條、第二十七條、第二十八條ニ於テ掠奪及び破壊大體止ムハ之に連隊オカル若クハ成ルヘ外避ケシルハ勿規定アリ又第二十三條(ト)號外參照我人必要萬々コト得ナシニ非外所限ハ敵國ニ隣屬或ニ財產ヲ破壊致又ハ取取利未收不ムコトハ禁止シ第二十六條ニ於テ攻撃軍隊ハ指揮官ニ於テ強制罪無穿逃収擧不加入ハ當事者合ノ外ハ敵國ハ據守不ム場所ニ對テ砲擊始ムハ當事凡ハ其指揮官ニ告知ス機能内ニ於テハ總力上手段ヲ以テ其砲撃不開始ニ相圖モ其場所當事ハ皆知スル可也但ハ將士有權モ有權モ此規定ハ精神ヲ同場所ニ於テ非戰闘太小人民ニ及ハシムハ勿規定アリ又第二十九條(ト)號外參照敵國及連隊病院等處病者傷者ハ

ア那ハ攻撃軍事ハ元帥チテ分兵手段ア豈大ニキモト此等ノ場所
ア軍事上ハ目的ニ供シ居反日義理之ヲ持テ大軍突厥タスア威
義理タギキドハ敵軍ニ打倒期以堪能シ即チ外國ノ敵軍更甚其者是敵軍アソ
アスル後方ア蓋ナ天也特異ア威法耶無儀也ア自古ニ希益大權欲固有也
付少ニ同僚第二軍ニ規定シ如夷被襲者有豫先攻撃者有連繫者外國者則以身
等特別ハ備章ア國ニ西寧ニ建築物又ハ帳容所等表示ハ無事御湯有度モハドメ
加之膳或ニ於ナハ私有財産不可使才原請ノ酒掠參之志ア難免也力故ニ第
二七八條ニ規定セル如ク犯職者加突厥ア旗シテ外國ノ敵軍又ハ其他ハ地主
外國者モア兵士ノ撫寧ニ総旗制令ハ元帥ア士官ニ並テ茲多言ア造才ハ學業立
地主文武兼能也

シタル場合ハ如初自國庫出給御用居所場合於八旗摺參御部止之注音又曰
モ著勝アシモベニシテ萬人財產中士人宗族慈善學術摺參教育ニ關スルモノハ
成ルヘキ之ヲ保護スヘキ事ノ謂也又其後御用居所場合御用居所トヨリ同様
第六防守セナム市府町村舊居宅又ハ建物ヲ攻撃シ又ハ破壊スルトヨリ専門
コレム第二十五條ミ明文アヘ故國非戰歸民ガル人民ハ住居スル場所ニ對遇テ
ハ毫撃ハ勿論之ヲ攻擊ヲ加フハヨリ能ハズナヘタ今日聯閥ハ法庫ヘシ茲ニ防守
セナル場所トヨリハ其場所築臺墻壁甚他攻守ニ關スル軍事設備ハ以テ否
シ因テ八旗守セナム場所所存者ハ各別か依存式ハ非並非連繩合築臺八旗城
歷次統次外ノ場所ニ於テモ抵抗スル人員ガリ同様ハ專門ノ防守セナム市府其
他ノ場所トヨリ者ハ又復攻セシ防守セナム場所トヨリ事實上其地ノ敵國ハ兵力
抵擋力無堪合則意味本相持アヘ民衆又謀反又叛支取兵罪ハ強矣又宣稱ニ及
第七背信行轄抗敵在十載餘處事無數起爲此種類大失敗者多也尤以八旗國
前過犯反逆所乘悉悉其廣義於勿心詔仰行爲事蹟據此則御將軍軍督往來

本節第二十五條(急進)規定氣保領事官及軍使領事官並其副官及軍使副官等
並其戰兵有服及赤十字之旗章及臂章之適用ニシテブルンタリ一、敵國
人軍旗、敵兵之制服等之使用ノカ敵軍ヲ欺クモ送支ナク單ニ敵兵ヲ實際ニ攻撃
シバ勿論、於はルニ其使用ハ僅モ力攻撃スルヨリ能事不以自開ハ徵章九
以テセシムヘ考覈ニ附説キ外レトモ是、イ全ク同氏人暴謀ニ國力一般人間ハ
所ニ非斯法上ニ於テ、戰闘ニ關ニ斯ル公然タル徵章之適用不以自開ハ徵章
セルモノ又何ト九種之戰爭法上ニ於テ一定ノ徵章ハ皆一定ノ意味ヲ有スル
ル一定ノ意味ヲ有スル徵章ニシテ國際公法ニ一般手筋利スル屬川々個人使用
ハ交戰者ニ於テ既久ニカヌテ、モハシテ屬シ其使用力久猶未ハ既盡、餘ノ爭闘ニ
附ハズ故ニ文明國社會ニ於テ合縱合戰闘ニ於テ一定ノ儀義在在シ其戰闘ハ
文明人類人戰争が度ヘキヨリ入要以之カ爲ノ斯ル徵章ノ使用スルノ已ムヘカ
ラカムニ拘ムス之天職用不以自其徵章使用無能効于歸セシムニモハ
ハバヌ以テ九種此故ニ軍使旗、旗白旗ハ國旗軍隊旗其他諸國以自
國及ヒ他國軍隊天區別不等モ徵章ノ使用及赤十字人旗章及臂章ノ使用

スルハ悉ク嚴禁スル所ニシテ之ヲ犯スハ背信行為トシテ斯法上大ナル犯則ニ
屬スルモノトス

然レトモ海軍ニ付テハ其法則ヲ異ニシ海上ノ法則ハ由來陸上ノ戰爭法トハ別
當ナル發達上ノ沿革ヲ有シ斯ル徵章ノ使用ニ付テモ陸上ト同一ナラス尤モ國
際公法ノ法則又ハ列國條約ニ於テ一定ノ意味ヲ有スル軍使旗白旗及赤十字
旗加キシテ艦船特異ナル斯ナシテ雖モ被戰國軍旗或敵國軍旗ノ攻撃シ又ハ敵
國商船ノ捕獲シシトテシテ浮標シ五主對手者ヲ欺ク爲ノ荷等之國旗其他旗號
ヲセ揚ガサル者風ニ敷欄財畫若クハ第三國ノ旗章或之又何國ニモ屬セラル
モシテ揚ガセバ決シテ不許、非特彼ヲ累計其攻撃又ハ相違行爲ヲ爲スニ原ナ
ナソ日本國之國旗被戰國軍旗或敵國軍旗ヲ揚ガサムヘシ
ウズトフルノ理由ハ英國判事ニ急進カ子セテ陳述シテ前件を前々述ヘテアリ如
ク、尙少間諺ニ御被戰國軍旗或敵國軍旗ヲ揚ガセバ、其事半々大當事滿洲ニ傳票ヲ送シ海事司
御被戰國軍旗或敵國軍旗ヲ揚ガセバ、其事半々大當事滿洲ニ傳票ヲ送シ海事司行ハシム
スル事當サ申御シ、前件之文ヲ散御傳票セテ御傳票自得保舉ヲ承ル、行持自國軍旗

存在シ重テ子ノ解放未解明キテ子ハ自權者ト爲テ第三者ハ皆モタル
シタル保全者ノ如ク英王之上ニ後見相續ノ權ヲ得取本ムモハ國ス故ニ家父ハ
此結果ヲ避ケンム爲メノ豫ノ第三考合約シタル所ニ依リ第三回ノ *Mansfield* 後更
ニ其 *Mansfield* 権ヲ家父ニ譲與シシメ次ラ自ラ子ヲ解放シテ解放者カ被解放者
以上三有ル保全者ノ權ヲ得ル是對於ス一書之書ナリセシム
此家子解放式ハ古昔以来於テ應用ナシカレモノ至シテ制限條件等ヲ攝入與無アリ
許業ス又此形式を行葉ムハ必ク子ノ列席ヲ解放並承諾ヲ成ベシクトモ反對セ
サセヨト要モナ蓋久ル歎美ナシ爾無自己感然以相續者ナ強アヌロ直能勝利
ルト等セタ何人歟此觀念自己對意ニ反對自己が必然相應者外ル權利ヲ制御者
ヨダマトナ蓋ナシビシカニヨリ坐大ハ詔禁ノ禁制ノ御禁ノ御禁ニ坐ハ
テテ威望一義 *Gratuitous* 帝ハ子ニシテ不在ナルモ父ハ皇帝ノ裁決ヲ以テ其解放
之得然ナシテ將來ノ本旨アリス此ト共^ノ家子解放法を呼ミ初テ不在ナル子ノ
爲逆ニ創設カラ實現ノ公後ニ般ニ應用モアル所事半傳聞ヲ異後少テ云當ナ御禁

第三章 婚姻及其实際又命婦夫妾の婚姻を爲め當時婚姻を異然たる古式大婚制
去外後來家子解放の眞言不前く於テ明治末年既見る足跡を有す家主近々子へ、
家子解放ノ結果(1873)當人子ニシテ不許セキシテ父へ皇帝へ詔書を以て其婚制
ミナシシヒジオ(Femarincipis)ヨリ生スル結果ハ獨リ家子ニ固有ニシテ已ニ生レ
タメ家子へ子人依然家父右權下ニ達致西婚放失久松子於テ自之母權者
ト爲リ從來存在セシ父權宗族等ノ關係ヲ破壊シ相繼權失而シ單ニ血族關係
ヲ保フノ如ク又自己ノ財金ハ父人特ニ自力之財保有ム然ニ承文定メトキニテ被子
並附隨滅失人吉者新方式剥奪シタクハカヌタム大帝國文總理開保人破壊シ
拘テミ再家子有固有親族ニ義ム相續分え一部ヲ得ヘキコトヲ決セリ

ニ其(Alonearem)謂テ家父ニ賜與子之夫ア自之子ニ賜與ヘモ相続皆ム無權財產
此種舉也猶第二節 他ノ家族權(Secondly, the right of inheritance)謂之第三回、Monogium 言復
(A) ハラニススラム(Alans)上項婚姻と解説於テ正當結婚ノ爲ムケ際婚ノ從屬權アハ
ハラニススラム(Alans)大抵特異ノ家族權六ハオ説外取思ハ所謂婚姻因由而夫妻
權(Alans matrimonium)大抵然レリモ此是也ハ他ノ場合ニ於テ第三者無財產

メコトアリ之ヲ Monus filiosque natus ト稱ス即テ女子ニシテ宗族(Alans)アム者
ハ遺言ヲ、爲スコト前ハナガリ以テ宗族關係ヲ破壊シシトニテ無き者無見人ア難
更セント欲スルトキ又婦女カ相接シタル家ノ祭祀ヲ消滅セシメント欲スルト
キ是ナリ此等ノ場合ハ皆老朽ノ法律ヲ回避センカ爲テ發明シタルモノニシテ
之ヲ生セシメタル理由ノ消失ト共ニ其用ヲ廢セリ
(B) ハラニシビズム(Monogium)于此家無權ハ家父ノ承諾ヲ以テ第三者カ家子ノ
上ニ骨ノ所ノセシムニシテ父權及ヒ夫權又如ク市民法モ屬三度セ之ヨリ生スル
惟利ハ通民法ニ属スル奴隸ノ上ニ有スル主人權ニ類似(Res simile)ノ家父ノ承
諾ヲ以テ爲サレタル賣買(Res propria)ノ式ニ依リ發生スルモニシテ家子解放ソ
際ニ之ヲ用フルト盧權ノ形式ニ過ぎナシモ異ニマニシビズムアリ以テ真王國目
的ト爲シタルトキハニ反シ酒税カ其價ノ上に結果其生落ガ得ナリ又調和小判
家父ハ金錢ヲ得ク家子カ他人ア爲スル勞働役税セリル此則承諾セシ浮キ物守
カ他人ナ加エシ損害ヲ賠償セシ莫テ子又以テ被害者ニ波シタルトキ是ナリ此
等之場合ハ故科時代共於タルニ甚ス稀ニ其通用ニ見ウルカリミ主ドシテ父權

ニヨシ帝國至多難處由其武事消滅タリ思之實苦甚也既々不量て此故
此Marechalメ雷モ克ニヤ者人狀態ニ奴隸體體位近次此權恩准レガ若ノ指命
上服從ニ勞働セナルニカヌニ而歎ニ其得レ所謀財産セ體大者主人に譲セリ然
ナトキ又奴隸ト異才所點セ市權及ニ自由ヲ失ム隨ミテ想可レ比擬此種體制
ノ解除セタルトキニ解放奴ニ非ナリ又賣買セシタ者ニ五年無縛リ
自然解除エヨシ賠償ノ爲引波タクタメ者ハ勞働體因ニ損害有補充又本來
ナキル自由ト爲ルメント云蓋シ十三編版法ノ家父本邦者三四タラシシおも實
ヲ爲ストキナ父權ニ消滅シテ子民猶權者ト爲シヨシ規定期を設シ蒙父權ナ置
用ヲ制限セシ所以ナリレ雷夫ノ共ニ其風ア強モト

第四章 後見及財產管理

第四章 後見及財產管理

第一款 未成年者ノ後見

男女兩性ヲ分タス未成年者ニシテ自殺若ト爲ルトキハ必ス後見ニ付セラノン
セノトス被後見者ハ之ヲ *Pupilus pupilli* ト呼ヒ後見者ハ之ヲ *Doctor* ト呼フ而シ
テ當初ニ於テハ後見ハ被後見者ノ爲メニスルニ非エシテ市民法ノ所謂親族ノ
爲メニ設ケラレタルモノアリ以テ勤者サシテ親族オ監督下ニ屬シ財産ヲ廉
敷シ能ハナラシテシヨシタルモ然ラシムル所ナリ故ニ後見が宗族中ノ最
近者即チ幼年者カ無遺言ニシテ死ヌルトキニ其相親ヲ受タベキ者ニ属シ又古
昔ニ在リテハ後見ハ恰モ一種ノ家族權ノ如ク後見人ノ權力ハ法律上別無限界
大ク又之ヲ監督スル者ナク後見者カ其義務ヲ遵守スル必單ニ嚴正ナル風體ニ
委セルノミセシテ法律ハ絶エテ後見任務ハ遂行ヲ確保スル事トナリ勿論加
シ後世家父ハ遺言ヲ以テ幼年者ノ後見入ヲ指定スル事トナリ得ル事及ニ市民法ノ親
族外ニ後見者ヲ選ヒ幼者ノ財産ニ關シ民事上利害關係ヲ有セナル人ヲ取リ其罪
誰ヲ委シ後見ハ利潤ナキセシモ負擔ト變更又時々ナシテ法官ハ幼者ニシテ親族ナ
キカ又ハ父ノ遺言ナキトキハ自殺後見者隸任立成ハ後見者更義勝タ地ナ後見

悉文ナ國寶典書ニシムル矣及ニ开始及テ幼者ノ保護又以テ後見人關係ト蒙大教
是レ歐科時代以後然後見者之義ナシ貴ナシテイシ法典ニ引用セル *Res ipsa* 調定義
據表明カ才所ナリ此定義ニ依ヒテ後見ハ市民法ニ基爾若等人故以テ自
ラ保護スルヨト第ツナル自權者ノ保護不ルカ爲メニ任勞不ル人ナシ附記大
レ点所權能大ニ御大威也指證又然ニオテ皆ニ遺言ニ過庭先祖源氏御譲文
本來後見者若年者未保護スルカ爲度也既外タル事ナカニ以テ自然人道理ニ基爾
通民法ニ屬ナリ亦然却テ取民法ニ屬シタル所蓋シ其居馬ノ公民スル上ニ他ノ公
民又有次バ權能ナシ然ニ公共負擔トシテ恩情ナシ以テ後見人トシナ指示ナシハ外然者
ハ正當方所理由ナタ然也之ヲ辭スルコト能ナムニ由是ア以为唯大公共負
擔ニ當ル然キ者即チ男子ヌミ後見人タク可得タヌ唯羅馬法ノ末年或至ト母及
母祖母又或場合著於テア更後見夫タク可得ナリ許在リ皆勿要也テ羅馬ニ有ヘ
往見人ナシ或義理大負擔カムト共ニ又同時ニ其任務ノ實行を容易ルテ或流傳前
為メ感情利害愛憎後見人ハ必スシモ被後見者ノ身體ノ保護ニ當ラシテ其
資產ヲ管理シ之ヲ經營スルノ任ヲ負フセノナリ

卷之三

遺言が因襲後見人を指定スル人權其父權及一部ト被り家業も屬シ其死後自權者ト爲所存者者又テ現生直接ニ家父權下に立ツ者ノ爲メニ指定スルモノナリ故ニ此後見他與(Second witness)其母系尊屬及ヒ子ヲ解放シ未だ父權在存セス又正當婚姻外ノ配偶ヨリ生シタル人上ニハ之内爲本シ能セラ既成遺言ナリ以テ後見ヲ指定スル此ハ一種大遺贈並類ニ成ル觀アリ隨才同様人形式ナリセシテ更命令的言詞ヲ取仕セシムカラ著ヒ家父カ式ニ備ル遺言ヲ以後見ヲ指示セントキハ其意思無疑ニ達奉テ以其選定者ニ關於テ毫モ法官ノ迄ニ容取スルヲ許サヌ然レトモ若シ遺言ニ必要ナル形式ニ缺點アリシル或ヒ父權ヲ有セドバ若者承認ナリ爲シタルトキハ後見選定ハ無効ナリ故斯ク降リテ煩雜大ナル形式主義ハ實用外ニ過ヘシ後見ヘ物者ニ對スル保護人方法タル地溝ナガシ久遠思想蓄育思想傳授代ルニ及ヒ父權下存セシムヒトニ關於處處上々關係親密ニシテ慈愛ノ情誼深く容れ大歎惜ノ極在到底人遺言ノ跡アリ

卷之三

者半保証スルカ商合法律風自ラ後見人ヲ預け出立人へ付セハシテハ此
義見人者能能、義審及因其往跡

(一) 後見人ヲ就機動物をサルヘカラナル義務

後見人ハ其往跡從事スルニ先事拂ムニ其擔保者ヲ先供給ナル必期ラス是故後
見終結ノ日を當す後見決算ヲ辨償ヲ被保スル者為ツナシ而シテ過舊後見費等
法官指定ノ後見事務ヲハ擔保者ヲ提供スルノ必要ナキハ甲ニ於フハ家父ノ信
用乙ニ於テハ法官之後見入身主ニ寄託爲シタル時權利以フ見レテ京不當此ナ
ヲ第二ニ端劫者財產自微ヲ調査セサルニカラス後見人ニ姑ヲ與後見ニ就キ
タル事キ及ヒ後見中劫者財產ヲ相續シタル都度之作ラシムカラヌ時シ
後見決算ノ日財產目錄又存セナランカ若シ其原固後見人ノ過失ニ非ナル場合
ニニ象列管ハ財產ヲ龍翻ヲ走ムル迄至ト是書シ之ニ後見人ニ詔狀メ宣テ
状ミ故ラニ財產因緒ヲ調査ヲ怠リシ者ハ彼後見人ノ宣誓ヲテ其總額ヲ定
ムルモノトス故ニ此際ニハ後見人所實際領受セシヨリモ過大ノ金額ヲ追償セ
シシラアルルノ危険ニ在ヌ第三ニ於クスサシナシ古時時代風ハ後見人アルキ者

シ

(二) 後見人ノ任務
後見人ノ任務は前項外不外乎其本務然し亦餘掛ニ或き事項又
墨馬法ニ於テハ後見人ハ幼者ノ保育ヲ當ラズアシテ以の幼者ハ住居夫亦後見人
ノ家ニ在ラス法官が親威中ノ一人ヲ選定セシ幼者ハ養育ヲ負シ後見人ヨリ其
所定ノ費用ヲ供給セシム而シテ通常此任ニ當ルシハ生母大リキ此ノ如ニ幼者
ノ身體保護ト財產管理トハ分立セヌ外然シ古昔ニ正當後見典制ニ幼者ヲ消
失セシメテ其相續ヲ承メントス然ノ放心ヲ防タルシカ爲シ取又自己手段ヨリ寒
ルルノニシテ正當後見人廢止共ニ此置供給亦消失ニ照キ過大ル旨固御久
シキヨリ遂ニ後見人ノ任トシテ合一セラレナリシナリ

此ノ如ク後見人之幼者外身體保護主並單純財產上之事故ニ異無從事其次
ヨノタリ其財產管理實際ニ於該典スヘ並行爲ノ別ナラニ種トスニラセシム

日本ニアガラの法律上開闢甲供場合ニハ後見人ニ自己之名義又以チ行動シ幼者少代表セシム乙ノ場合於大供行爲發主格單幼者被委託者或見人ハ其能力ヲ補充スルモノナミ發見人ハ後見ニ合一トシセリ

英國のGURDINGニ於テ外個人事蹟モ法律行爲可於外自己ノ權下要在ル者固非ナムハ代表セシムルコト能ハストノ黒馬法公原則ニ基キ後見人ハ自己之名義サ謀ク幼者ノ財產ヲ經營セナルベカラヌ故ニ後見人自ノ職務ヲ負拂シ又權利ヲ實任者ト爲リ幼者ハ全タ法律行為ノ外在リ而シテ然見人ノ權限ノ境界甚タ廣闊ニシテ俗モ被後見者ノ財產ノ所有主タリ法ノ如ク德ヲ幼者ノ利益美以テ目的ト爲ス本來ハ隨意幼者被財產ヲ處理タルリ得所拂故當收入ヲ受領又負債者ヲ追訴又有債讓與等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得然レトモ後世ニ及ヒ都市及田舎ノ不動產ヲ讓與スルコトヲ禁セリ

英國の(能力補充)トハ被後見者カ自ラ爲ニ所ノ法律行爲ニ對レ後見人カ自ラ其場所於テ一定ノ形式ニ從ヒケ幼者ノ能力ヲ補充シルノ意ヲ説明タルセシジテ法律行爲實行前又其後ニ於テ或ハ書狀ヲ以太與幼者所因認許セ非典

後見人ハ必ス幼者及ヒ第三者共ニ法律行爲ニ臨席セタル事例又自ラ法律行爲共對シ能力補充ヲ爲不セヨモ形式ノ辭を從ヒテ陳外堂アル事カラニ後見人ハ幼者カ自ラ法律行爲ヲ爲ス未認ムモニニシテ法律行爲シテ生決ル權利義務ハ幼者ヲ以テ主格ト爲シ後見人ハ全タ其外三在リ然ビシ幼者カ自ラ法律行爲ヲ爲シテ自ラ多シノ能力ヲ有スルヲ要ス若シ能力ニ及タ全然缺乏シ其崩芽タニ存セサランが後見者并絶無ス能力ヲ補充シルコト能ハサム空明カナリ而シテ羅馬法ニ於テハ七歳マテヲ以テ小兒(infans)ト呼ヒ毫末ノ能力ヲ認メス故ニ後見人ノ能力補充(Augmentation)與スル者ハ七歳以上ノ幼者後見人ナリ而シテ或法律行爲ニシテ必ず幼者カ之ニ關與テル當トテ要スル事尋覈見人ノ能力補充ヲ得テ始メス之ノ爲引得ヘク又此能力補充が唯ま後見ニテ存スルモノナルカ故ニ管財者ハ之ヲ爲スガト能ヒ文民人ノ間ニ相應者無く行儀後見人ハ一人ナルコトアリ又數人カルコト有リ第二ノ場合共於外數人後見人中一人ヲミ管理ナシ行當リ管財者手傍觀耳ニ名義ヲ守成財目為財ニシムアヌ又數人等シテ修理人勞フ兼ハニ情不入而當交人當行ニ同リ六カ月不立ムト

數人ノ後見人中一人又其任ニ當ルム通常父ノ遺言ニ因リ之ヲ指示シタルトキニ在リ或ハ又法官ノ數人ノ後見人ヲ指定期タルトキ不擔保ヲ提供スルセラ以テ後見ノ任ニ當ラシム其他ノ際ニハ法官ハ數名ノ後見人ヲ招集シ其中取就キテ管理スヘキ若ラ指名ス而シテ此任ニ當ル後見人ハ獨リ財産管理ノ行為ヲ實行シ他又之ニ分與セス上記を等シク後見ノ責任ヲ負担スルカ故ニ管理者ノ行為ニ對シ監督スルコトヲ要セ然レモ其義務ハ他ニ附隨スルヲ以テ被後見人ハ管理ニ當ル後見人ノ財産ノ辨償不足ノトキニ非サシム之性對象追訴フ起スコト能ベス

若シ數人ノ後見人ニシテ後見ノ責任ニ當ルヘキ一人ヲ選定セシムスルニ達成和協スルコト能ハサルトキ成ハ共同シ成ハ分擔ダク管理ノ任ニ當ル數人カ數見人カ共同シラ財産ヲ管理スルトキハ總テ若管理行為無對シテハ連帶ニ責任ヲ負フモノトス之ニ反シテ能力補充ニ於テハ「アドロカシオラ除クノ外ハ一人ヲ以テ足レント爲スシテドロカシオラ」¹後見人抱負有同意ヲ要スルハ蓋シ後見ハ「アドロカシオニ依リ終結スルヲ以テサリ若シ數人ノ後見人カ地方又カ

財産ノ種類ニ従ヒ區別ヲ設ケテ管理ノ仕事當ルトキ又各自管理ノ部分ニ對シテノミ責任ヲ負フセシトエニ當リ遺言ノ候ニシテ對象者ノ種類又其性質ノ差異後見者之法律行為ヲ爲スム幼兒（Infans）ヨリ出ナタル者ノニ限ルハ意思ノ更ニ發達セズレタ能力又全ク缺乏スカガ爲ヌナリ哉ニ若ニInfans（七歳以下ノ小兒）ハ一切ノ法律行為ヲ爲スコト能ベ妻後見人ハ之ニ對シ能力補充ヲ加フルヲ得ス七歳以上ノ幼兒ニ對シテハ其狀態候ニ根拠セリカム公學教育本體可也夫古時代ニテハ七歳以上ノ年齡ヲ分ナク二ト爲シ幼年者又成年ニ過者又及リInfansニ近キカニ從。Infans Procretus或ハPabellati prorinusメ二種トシ才智ノ發達即チ才事實ニ就キ之ヲ區別シ甲者ヲ以テ七歳以下ノ小兒ニ單ニ全然無能力ト爲シタル者此區別ハ消滅シ唯犯解止ムハテノミ乙者ニ責任ヲ負ルシシテノリハ七歳以上ノ未成年者亦唯リ其地位ヲ善食す事シ夫ニヨリト得候意願ノ財產得取ノ契約ヲ結シ又ハ財產ヲ得取又ハ財物ヲ與トモ其聲蓋ニ加フルヲ得ルモノトス然ソドモ忠生反シ夫其地位ヲ惠ムラシムルヲ得ム換言スシム後見人ノ認許ナ赤シ財產ヲ契約又ハ財產契約與財產又何物ヲ資本モ費盡セリ誠

少成年ヲ得ヌ何差別此乙種又行爲無於其利害又地籍又得失ヲ衡量シナ考
ヘタリテ所ニ僅ニ發生シタゞ文書署名及之ミ寄るハシ其能及者才ナモ若人
諸口箇之規則在適用ハ無當行爲事於天へ賜神軍前ナシ又未成年者セ白々贈與
者久莫北カ威内領受者ノ如是方從其地位ニ善惡と爲之辨識見瞭然ナシ無
有償行爲殊或體認行爲ニ於不屬屬同時並て物ヲ譲與ニ及其共他物ヲ領受ス
而加故ニ其狀態較之復雜シノリ若シ兩件オ規則ア適合シナシ欲生ム哉該行
爲ヲ分解シテ二ト爲三未成年者ニ利害ヘ蒙ハ之ヲ有效トシ害無トキ不無效者
爲ナサルヘバ失敗ルヌ如誠而以ナテ當初ニ既法律半而此力申キ解釋ヲ取ルヌル
モ之ニ先生次第結果ニ當事者ニ遺漏ナ居ル又明カニ公平フ既端スル以ナ途
ニ未成年者ベ此行爲ニ對シ其維持又是取消ノ號無可選擇モヤ承得ケロトク
決セテ片務行爲ニ於天些其效果ヲ分解スルヨト容易ナカニシ以ナ其地位ニ良ナ
考就及之點又有效ミシ恩カラシムノ點ヲ無效清シタリ例ヘヘ貸借ニ於未成年
年者シ借出タル物ノ所有主ト爲リ返還ノ爲メニハ債務者ト爲ラス然レトモ此
決議ベ公儀ニ属シ又以ナ斯時ノ時價常ニ未成年者ニ係見入く認許シ經手

シテ法華有義辨爲數多亦外ナ本當ナ當權者御滿程度ニ並職務居員々ナ
神帝ナシ事ニ至ルトシ由人ニ寢リ一室ノ相處ニ堪セテ失財ヘ不可外ノ損失ヘ沿
發見ソ敷吉ニシ源井子國ナシ大失財ナム大其父ヘ源井伊藤音ヘシ夫子ナ
後見ナ被後見ニ關連ル御就事因支聽ハ取見風ニ謂ヌシ那故事因着施了本甲立
場合ハ制動者少死亡率亦アル達キ病氣致卒母被命ルキ制大失聽少合意モ
祖母也是母ナ死リ母答ム(1)後見失財死亡(2)大失聽為(3)母往想由深深可悲也
大失財又津益見士不延之行要復ナ御恩想大能足之火ナ置キ是五ナシ酒冒ヘ
後見形同告ナ多シトキニ御見入學後見立就釋服ルトキ被後見セシ醫益及通後
見中收又傳文全額を後見者爲謀害監禁後全切ナ度處マ東對照シ放罪ナツル
ヘカラ甚害被教久及支拂ヲ想ナシトキハ後見人ハ制候ニ對シ負擔者ト爲リ
又必要ナ是支拂教久及通販ノ夫妻モ夫妻モ東對を被後見者告醫督モ負
役セノナ日本者ナ彼此雙方身體害離行拂制告者ナシモ不特別ノ醫督ナ有効無
ニ被後見人ハ其數相ヲ有シ最後ノ方法トシテハ損失ノ理由ヲ以ナ後見人ノ認
許ヲ以ナ爲シタル法律行ハ取消アシテ請求スルヲ得(Radiatio in integrum)

卷之三

160

不思力者ノ保証ニ在ヌミシテ重キニテ對ノ事ノ間接小物トノ關係モ既ニ
其行爲ヲ成東セントナル。在テ此處故人發達を顯神代ニハ婦女ノ後見ハ漸ク
廢棄ニシタル者有ハシム。古代ノ理由ノ用少タ石等が未だアヌ婦女後見
ノ真正ナル理由ヲ指示シテ既ニ後見者即ニ市民法ノ親族ノ為ニ婦女ノ財
產ヲ保存シシメシトスル也。在リド白毛ノ山ノ邊境ニシテ以ニ六十餘里
婦女後見ノ理則ヘ上交ニ通ヒテノ事者後見石堤向ニ循リテ以テ連玉公鑑婦女
後見ニ特有ナル條規ノノミナ捕々ノ御恩人ノ御恩重大也。御恩開ハヘ該
婦女ノ後見ニモ亦二種アリ。宗族及ニ宗族統ノ法定後見矣矣。宗族主因ニ選任焉
ハ遺言後見及セ以上兩種ノ存在セシム。又文庫後見ハノ事體力夫也。ヨリキニ就
判官ノ指揮スル後見是夫少然レヒトテ遺言後見ニ成ルハ後見夫天人指揮スル矣。而
トシテハ或ハ夫天人指揮矣。夫天人指揮ハ而以ニ夫天人百口ノ後見夫天人指揮セシミ。而後
見人ノ指揮スルハ權アリ。夫天人指揮ハ遺言後見矣矣。夫天人指揮セシムハ公鑑也。而給利傳
判官ノ指揮スル後見是夫少然レヒトテ遺言後見ニ成ルハ後見夫天人指揮スル矣。而

上は實際の事例を示す。即ち、前記の如きの事例は、全般に看來、在地の有形無形の形態、而爲之古代の設ケタル所以の嚴格なる性質を毫末に其形跡ヲ失メナル至リ、遂ニ後明文の法律等の不勝其名の如く、而能る無形の性質を大體も保てんとする人多有矣。馬ノ久留政今未重慶製又引導女後昌制御人其曾名存布良實又善根人也。天正廿四年九月廿日付。此處の天正は天正元年を指す。即ち天正廿四年也。是れが天正廿四年九月廿日付。

無能力者ノ利害ヲ直面スル者ノ財産監督權主何を期す此種ノ権能者等者ヲ傳メ
テ保全セシムノ外更に財産在押者監督見ニ於ケルカ如シ故ニ發狂ノ常態ニ在ル者ハ
至シ法律行為ヲ爲ス事ニ能ハナルヲ以テ之ヲ例外ニ措キニ之反シ時精神錯
亂リ末ス者ハ其健忘狀態ノ始々見生ル時ニ當ル必専精勤若シ積善莫ニ本末
存焉者ナ爲ヨコモア助弱ノシ考ハリテハ浪費者也關ナシ也等シ源家族財産監督權
セシドスルニ在ルト以テ浪費者ノ財産シテ浪費者ガ自ラ之ヲ擯シ財産監督
セシ第三者ヨリ借タルモノナルモ半分管財人ヲ附セタムバ誰シ此等ノ財產固元
來親族ノ相繼分トシテ希望ハキモノニ非サレハナリ又遺言相續ノトキニ於
クモ管財人ヲ設ケタルハ家父ハ遺言ニ因リ宗族ヲ相繼ヨリ遠サケシモノト看
候シタレハナリ十五年廢法ノ上説セシ精神ナルハ狂喜及び浪費者ノ管財人ヲ
兩知スルシテ之ヲ觀セシム御恩ヘ雖然シテ前題ハ否矣其御恩ヘ止ムセムキ至リ

(一) 痘瘍の發生は年々變化するが、その原因は、氣候の變化、食生活の變化、衛生的管理の變化等によるものと考へられる。但し、その原因を明確に定めることは困難である。しかし、疫病の発生は、必ずしも氣候の變化によるものではなく、社会的、經濟的、政治的、文化的、教育的、衛生的等の複数の要因の影響を受けている。したがって、疫病の予防と治療には、これらの多面的な対策が必要となる。

(二) 痘瘍の予防と治療は、個人的・社会的・経済的・政治的等の複数の要因の影響を受けている。したがって、疫病の予防と治療には、これらの多面的な対策が必要となる。

過失ヲ犯シニ復早ケテ懲罪懲過ヲ尋我私財原返ヲ懲罪を拂ヒ書置ヒタリ然事
上事其劣惡ヲ覺醒或悔過或自悔或自咎或謝過タルヲ難解及ヒテ示威を失ハシム事方難
駕馳セ野地ヲ供養祭奠完畢ナシリ營入ヲ忠誠歸宿又是故ナシキ因リ吾人ト
者ソ才江十数年未滿メ若豈區別有ナシ之様雖在安全モ火レムアレ置カセテ無事
出立後即ち是若其事業や家庭に及ヒテ罪者無事モ第四管把吏實チ以テ多處法也擬
(二)二十五年以下ノ者ト其不經職事署理シ法律行爲ヲ爲シタル第三者ニ對シ
少所費ヲ開起火レム得然レトモ善宣ノ第三者ニ對シテハ之ヲ引用スルコト能又
私事アルシ故ラ二十五年以下未了卒業即如何ミ禱告ヲ受シルモ第生者當善終
身ハ保護ヲ得ルシ是故ナシ是覺以テ其親法官上更盡効者法不經職事官招革於
タル職務ヲ恢復スル事萬事ニ先基處還物事例所定之處訴權又應用而給付
口傳力許セリ抑ニ此完全返還ナルモノハ一ノ宣告ニシテ裁判官ハ之ニ依リ法
律上は即有效ナシ行爲後取消シ事務ヲ拂ラ府前及狀迹ニ復浦シ當ルモ須少
時法度ニ處全返還ヲ當與ヲ幼者ノ需メセシ密又之謂甚誰山本目的謀意計得法
事例第左者ハ若シ幼者後對事ト生シ事場ニシテ相應實役與當事事例此勢無事

依テ是號稱爲人無奴ニ歸來タ見キラ異常敢お勤着奉契約スル由ヲ歎仰
ナシ並蓋ヨリ終ニテ所が方々此ノ事例ノ所也ト希翁幼者請報能成ル第爲アリ止
五年未至所向取管財人對認並無切看行爲則輔佐セシムル又許後ヲ繼承並知此
管財人亦幼者ノ請ニ因れ任給ナルル事ニシテハ切掛幼者用必ス乞ヌ又有次
ア要セ列夫新ガ族ニ之差附ス者ノ用意周到ナ願也ノ事シテ自ラ損害ヲ招ク恐
レ少タ之ニ反ヒテ之難諦ヘシル者ハ浪費者也而尤モ管財人云必娶幼者也
者タ殊外奇怪ガア結果ヲ堅毛難致大抵管財人ハ眞善ニ御與ヒ大其如斯事無
古來幼者未法律待ス爲ナ其ト寔忍亦當ナ第3者ハ特認管財人ノ任命ヲ請求
火候ニ付テ得利無其請否ハ幼者請辭由判ナ前其他後見事決算幼者請負債者却
支拂シ難人下者及ヒ訴訟前除ニハ管財人の任命ヲ強フルコト得タリ蓋シ此
等ノ管財人ノ外側外トシテ被後見人ニ附スルコトアリ例へハ後見人ノ請任セ

財産管理之結果皆損人與其資本又為費者、營利人二十五年以十成者、謂
營財人又有二種者焉能及之、管財人ノ權能ハ其種類ニ從ヒ自ラ差異ナキコト
也。卷之三左、運営事項ノ種子ナシテ之を以て經營て之は此也。右同前之營利人モ
(一) 善管財人ノ有無有無者、能効力ナシハ營利人ハ益々増ヒムセイ、蓋因之出
狂者ニ於大智精神錯亂時及之精神清明時ニ從更全免其趣焉異乎此精神錯亂時
古株之性本無存而失之於共ニ意思亦全々失之者以爲狂者又爲常人無所
羣々結果者如何ニ關契ヲ結焉無效ナリ(營利人ハ狂者ノ補助シテ其法律行爲ヲ
有効大智以之心火大之並無備ニ何ト在ヒ大精神錯亂時ニ在者有大意全然無在セ
大體ノ所以大輔佐也ヘキ、意猶大外ノ情大則義之輔佐也謂又大者ハ不完全者也、無
者可承承諾者與有ル意思者存スル必要ニ之ニ反シ大精神清明時ニ於タノ狂者
並狂者莫以所以營先之健壯狀態而復計其間神於之爲次元行爲ハ完全無缺共
以大批賈之容居ノ大體地大之此大如狂者者皆爲其大精神慈慈也從後之竝方
所有無撫撫滅萬物以之而歸焉於天地也猶者承法律爲之爲大財源也之精神

次第外にシモモサ否キアリ紹特等原則不認可之ア判定ホムノ爲メソ内甚尙細密又
威シタガ事ニテモト標記黒馬法ハ終始上セル規則ヲ捨テナリシカ如シ
消費者ノ無能力を禁治産宣告ヲ始マキ其解除ヲ宣告セ至シマク被服多在
者ノ如シ間断ナリコ下ヲ元來旅費者ハ承諾ヲ與フシキ意願存在ホルヲ以テ
管財人ヲ輔佐ツ以テスルモ可也自己ノ狀態ヲ無カラシム時空行爲ヲモ爲不論
トヲ得又自己ノ狀態ヲ良オラシムル行爲ハ單獨ニテ之ヲ爲スコトヲ得
二十五歳以下ヲ未丁年若然原則ナシタニ十分タル能力ヲ有スヤフ以オル切替
法律行爲即チ自己及状態ヲ想カラシム第性又難能之才爲本源不可得也然ツ
トス然レバモ法律於體種ノ方甚ニ依リ幼者ノ保護之才又成年者皆眞目的更
述ニルカト能ハズ却ア第三者ヲシテ二廿五歳以下未丁年ト契約スル危惧
ヲ懷カシム體ヲ未す年者ハ信用ヲ損失既至シ更ニ入監セシテ既シタル所ナ
テ其後更ニ皇帝ハ二十歳未超過公ノ資々六其聲至國ニ百特美名(PEACEABLE)
與ヘテ向來獨立シ身ル成人生立テ其稱爲其取諱焉コトア得爾斯而ト列候セリ

夫ノ事務本筋水ニ在ヘ財貯支配及核算甚尠漏洞ニシテ暨地圖及ヲ除メテ先
ニ總計之ヲ爲不正才得第二之場合ニ於テ共其年半期方自利潤得存爲之也
ニ當ナ其同體(consort)者與財庫ニ對此同意在後見八人前方總經理(Mr. G. H. Smith)又
此スハキニテ大ニ其趣ニ異ニ深定式又點解及兩項明者五分ナ要略ス又管財人
ハ行爲實行ヲ據ニ成ル所要ニ外單件口頭或書文當タ以テ寧故財務及後
ニ迄ノ發表スルヲ以テ是を理由シ欲ニ管財人ナシ同意共年者カ已様狀態ヲ
墨カ否カハアラ以テ他泊主者ニ對シ完全還還(Balance in discharge)は請求不得
ヘキ行為は對シシ換保更換ナルモノナシニ算盤圖モ之を然スハナリト得
狂者ノ管財人ニ見立セ火如ク補助ニ付意思ナキツ以テ同意シ却ツル能ナ能
ニス管財人ヲ職務外財産管理止セ清々未詳年莫管財人兼就すナ未丁年者カ
自ラ法律若焉ニ加禁承ヌ要委代表者ヲ察矣職務モ之算盤外或ニ財產管理或將
間意ノ中其選ス所キ候ス既以得ヘ管財人號主號主號主號主號主號主號主號主
財產管理ヲ終ナ不成功管財人或不被管財人及處主ニ關從ル原因當由ル管財人

第五章 人格減少 (Capitis diminutio)

第三章 場合で其の死由又法定管財人或不親信而失管財人或失管財者
失養子又其無能力者其他財産管理人屢屢消失或狂躁或怠惰浪費者禁財產
解除人宣告人如以財產或其所有物為其主張或其所有物為其主張
管財人後見人又猶前爲父女夫婦關係形式又特殊擔保之提供伴
ナムカニ又管財上不信切方或之主張又追認之或不得其他管財助丁
トキニハ管財人未算定爲之モニ其能務實行久許可と能ハナリト
カレ被管財者或擔保者或財物之賠償不或ムハラキヘ其一端ハ管財人也
第五章 人格減少 (Capitis diminutio) 人壽の専權不全狀態又以之存立
實體本人能力ゼノ滅失也固リ存形上雖ヒ司法上治失又ノモ古ハ力不全謂之所
人消失又意思喪失亦即失人也謂之無人其人精神完全否認之失人也謂之失
失之馬鹿若於人不堪即「失人」而皆乎不構成失人也自由權の失人

權(?)はもと家族權(?)三元素ヲ併有セサる處カア第一人ニシテ自由人ニシテ公此ダリ市民法上家族タルトキハ則チ其人格ハ完全充備シタルモノナリ此三元素中自由權ハ人格ノ基礎ヲ成ルニ致シ族權必シ他又置權又有此ル三人格ヲ保ツコト能ガ茲例初ハ奴隸之如キ是夫之之反シテ市權家族權ヘ存立在セナルモ若シ自由權ニシテ存在スケトキハ人格ハ尙ホ不全狀態ヲ以テ存立スルモノナリ例へハ外邦人是ナリ。

自由權市權家族權之三元素均シ漸發消失タルカ儀ハ其一部ノミ消滅セラルルトキハ之ヲ呼ヒテ人格滅少也(Slight diminution)莫謂然タル人格滅少者ルキメ少常ニ地位ヲ失墜テ指スカ如斯モ必スシセ然ルニ非シテ時ト少歩此種權主入權ハ或ヘ減少ズレ或ハ破滅セラルルニ終ドヨリア滅失又時運シテ他謀抗格致以テ代替セリ而モ此變化ハ人格滅少ヲ受ケタル者ニ佳良ノ地位ヲ得セシムアルセドナリ畢竟人格滅少者在シテハ體身勢ヲ以テ之變抗格致シム所幸ナリ通常此變化權主格滅少受累固ル者更不利内反モ時運シテ之ニ度タルカ結果此生靈形骸蒙州ツ界不立異哉前此滅失權滅少者既テ死也革

此シタ承認不可カラア否既土此死當時當文オ薦生ニ以深哀歎天音ノ聲不復可解又忘之既
論又大々細考タリて人情歸之其原因ニ甚セシ事人情歸之而固存セシ謀果
上既慮セ理無果ノ庶人人格滅少ニ至極不黒(?)最大の人格滅少者也(Slight diminution)
且再述(?)中貧的ム格滅少者也(Slight diminution)最少の人格滅少者也(Slight diminution)
且再述是亦莫基根由然事事實上出頭人之底本不聞テハ自由如何市權入喪夫ハ
(一) 番最大の人格滅少者也ハ婦孺老病々等ハ舉頭セリ而無聲也ハ視人謀果大
是故由人情果テ奴隸狀態ニ陷ルトキニ生スルモノニシテ自由ノ喪失ハ司法
上ノ太格要確滅相隨ヌ又市權家庭權人情失フモノナリ最大の人格喪失
ハ自由ノ喪失也ハ妻女老母等ハ唯妻馬妻等民也ニ大氣不又外邦人モニ通居セ
テが戰時捕虜老病之死病者無期又逃脫ノ裏後自由恢復(?)古事記ノ原則ナ爾
夫自由復收斂者皆曾久景本朝人格滅少也羅矛充里單曲未竟解定矣失之
(二) 中位の人格滅少

若然テ定ノ原因ニ由リ自由ヲ保全スト而權モ市權ヲ喪失スル者ハ即チ中位の人
族權家庭權者也夫又此種ノ人格滅少又義失也而刑事上之宣傳皆固又農馬公

(三) 豊少の人格減少
此人格減少率於ノ奉自由及市權へ逆張失フ事下テ單ニ家族權又喪失^ト因ルモ甚シ故法舞上人格減失極端ニ其爲事例而論者有之^ト人格ニ關事代舊ニ成ル者大ナリ即ハ家業或ハ家業其妻本來爲リタ居本來夫婦タ併テ其結果而主等家業更ム既觀上必失此人然滅少ヲ見ル時其夫也^ト最大即ハ其妻失人格就少ノ結果ニ成ル難想ニ當ヘキトニ至ルハモ^ト又ノ自由、愛夫、同居大格減少而獨立制走ル一ノ事故ニ非ス寧ロ他ノ事故ヨリ繼發スル所ノ結果ナルヲ以テ之ヲ其原由タル事實ト混淆スヘカラス例ヘ^ト自由或ハ市權ノ喪失ハ人格減少ヲ致因ム事例^ト人格減少ノ結果ニ非^ト既夫^ト又ノ人格減少ノ借鑑タル事實^ト以テ其結果ト思考^ト殊著ラズ例ヘ財產沒收、公權剥削剥削^ト自由及上市權喪失ノ結果ニシテ人格減少ハ其原因ニ非ナルナリ人格減少ノ固有ナル結果ニシテ最初有^ト夫^ト市權上入格調消失シ實無ニ成新次ル^ト人格ヲ伴ル事^ト想

(三) 景物的人格深浅

○最近判例要旨案報
六七以古有法改定之民法第一百八十四條所謂第三者之承諾者本入カ其代理人ニ對シ第三者ヲ爲ダ古有物ニ占有スカレハ命ニ第三者之ヲ承諾スルモノ謂也モナキカレ本入カ謀代理人ニ對シ古有物ヲ第三者ニ認可ム既非又大審院明治三十五年(乙)第六百零六年五月五日判決四十四年、難解
六八ニ地上権買得者ノ権利 明治三十三年法律第七十二號ノ施行後一箇年
ノ登記猶豫期間内ニ於某家屋津共ニ地上権ヲ買得シ之者其土地之所有権
ヲ買得シテ者又ノ權利關係ハ前所有者間の権利關係同シテ反對ヲ證明シ
ラクテ限ル同法第一條ノ規定ヲ受ク而所有地主ノ地上権ヲ買得者ハ登記ヲ
爲所要セ所所有有權者對對ニテ地上権ヲ主張シ所有權者之之物權又ノ財產
又得ナ被當事者(同明治三十五年(乙)第六百四十一號地上権取引保證書)

六度セ遺言執行者ノ資格及ト権限、遺言執行者ハ第ニ種類人ノ代理人レシ
後相繼美ノ權利ヲ運営行便スル事上非並非其任務本相續財産ノ管理其他遺言
ヲ執行する必要力ガ一切メ特爲ツ爲女權利義務ヲ有スルモ依リ相續人ニ對シ所託事務起
自的リ其名義モ移シタル場合ニ於テ遺言執行者爲相續人ニ對シ所託事務起

タル方角又ノ開口ナリ其權限之屬(同明治三十一年五月二十六日第三號地所建物登記
二月二十日第○判決)、(同前三十三年七月十二日第○判決)、(同前三十二年九月二十一日第
七〇判決)民接施行法第四十四條ノ解釋 民法施行法第四十四條第一項ハ民法

施行前三規定シ次第地上權ニシテ存續期間未定ナリ(同前三十二年七月十二日第○判決)付付當事者(同民
法第二百六十八條第二項ノ請求又リタル場合ニ契約所カ其存續期間ヲ定メヘ
焉標準ヲ示シタルモノナムニ第二項ハ建物ノ荷廢又ハ竹木ノ伐採期至ルガ
次少以テ存續期間ト定メ候ル事ノ如キ前之存續期間ヲ定ムハ無標準ヲ示シタル
可也(同前三十五年八月二十六日第○判決)、(同前三十六年三月九日第二民事部判決)

七一 白紙委任狀附株券交付ノ效果 記名株券ニ白紙委任狀ヲ添附シ之ヲ
他人ニ委付スルニ於テハ其株券ハ委任狀ト相待テノ帳轉流通スル慣習ノ存ス

ル以上ハ證券直接ニ當事者間ニ於テ認密契約ヲ爲シ成場合ニ於テノミ白紙委
任狀ヲ利用シテ株券ニ書分未済古處置者シタル場合(略)意モナク且過失

ナキ第三者カ債樁ニ從ヒ該株券ニ書キ取得シタル權利ハ該密契約ノ基キ之
ヲ攻撃スルコトヲ得ス(同明治三十五年八月二十六日五十十五號株券取扱請求
ノ攻撃スルコトヲ得ス(同明治三十六年二月二十七日第二民事部判決))

七二 裏書年月日謄記ノ效果(同約束手形ノ裏書ノ年月日ヲ謄記シ
タルトキハ其記載ハ無効シテ裏書行爲モ亦無効ニ屬スモノトス隨テ裏書

ニ因リテ得タル利益ハ法律上ノ原因ナシテ享受シタルセシナリ(同明治三十
五年二月二十四日第一民事部判決)、(同前六月二十二日第○判決)、(同前

七三 支拂拒絶證書作成ノ委任本支拂請求権ニ執達吏カ手形所持人ヨリ支
拂拒絶證書作成ノ委任ヲ受ケタル以上ノ委任者ノ爲メニ支拂人署名シ字形ヲ
呈示シテ支拂ア請求スルノ權能ヲ有ス(同明治三十六年五月二十六日第五號約束手形金債
判決)、(同前六月二十二日第○判決)、(同前六月二十四日第○判決)

七四 管理費ノ保険費等ノ積荷ノミタ保険料等シタル場合は尤ニ非スニア、天災若風火災等被
積荷其物ノ流失、滅失等ニアリ制限シタル時セ又ニ非スニア、天災若風火災等被

爲本船體損傷ヲ據定港ニ運搬區間ヨリ能ヘナル如キ不可抗力然因々途中モ於
オ積荷不賣却財損害ヲ生スルタノト寒天保険者ヘ其損害ヲ負擔其餘貲モ被保險者

(同明治三十五年(大正五年)九月二十四日第二民事部判決)

(同治三十六年二月二十五日第二民事部判決)

七五、送達及ヒ呼出ナキ共同訴訟人ノ自願辯論參加ノ故意(民事訴訟法第

五十條第五項ニ於テ懈怠タル共同訴訟人等總之ノ送達及ヒ呼出ニ爲スニ
其訴訟人ヲシテ何時迄ト瓦訴訟手續ニ再書加ハシム便宜ヲ得セタル爲支
ニ外ナフス故ニ懈怠シタマヽ訴訟人カ呼出ナキニ拘ハラス(何等ノ異議ヲミ犹ア
シテ口頭辯論ヲ加ハリタノ以上ノ送達及ヒ呼出才キコトヲ以テ原告ノ理由
ト爲スヲ得ス(同明治三十五年(大正五年)八月十四日第二民事部判決請求))
七六、連帶債務ニ關スル訴訟費用ノ連帶者訴訟費用之債権行使セ行使セ
生ヌル費用ナルヲ以テ當事者間に在リテ之利息ト苟シテ附從ノ債務タルニ外
ナラ、故ニ連帶債務者ハ該権者ニ對シ又其債務ニ關係ノ訴訟費用ヲ付セテ亦
根本ノ債務ト均北之連帶債務ヲ負擔セタルハ惟多處(同明治三十六年(大正二年)二月十二日第三民事部判決)

(同明治三十六年二月二十六日原告請求事件)

(同明治三十六年二月二十六日第二民事部判決)

(同明治三十六年二月二十六日第二民事部判決)

七七、假差押命令ト財産使用権 船舶ニ對シ假差押ノ命令アリタルノミニ

ヲ未タ其執行ナキ場合ニ所有者カ執行アラシコトヲ虛リ船舶製約ヲ取締ヘラ
シカ如キハ法律止所有者又爲スヘシ當然ノ債務ニ非ス越テ之カ爲メニ損害

ヲ生スルニ該命令ヲ發セシダル者ノ不法行為ニ基タル更上謂フヲ得ス(同明

十五年(大正六年)二月二十六日原告請求事件)

(同明治三十六年二月二十六日第二民事部判決)

七八、登記簿ニ記入アリ不動產上權利書記意義有無民訴法第六百四十八
條第三號ニ所謂登記簿ニ記入アリ不動產上權利書記アリ不動產上之物權アリ有無

ノ者即チ相當權者又ハ質權者莫加キ更指標主ノ姓名ニ者又質借人ヘ之ヲ包含

セヌ則スル抗會事例明治三十一年(大正四年)不動產上權利證書各ノ決定判決

八〇、捺印ト文書偽造實文書類ノ作成者ニ非スル他之係官員又承認人爲

其書類を捺印スル者書類アリシテ前ツノ特許権利書類の辨識辨認

書簡送變送期ヲ行使者明治三十五年七月三十日第一回第三回
八一 痞證ノ見張明治三十六年十月十五日第一回第三回
フ隨明治三十五年十月十五日第一回第三回
ニ任明治三十六年十月十五日第一回第三回
犯人カ或犯罪ヲ實行セシ村久之監督取其目的實地又處置爲メニ新犯眞審裁犯
罪ノ進行ニ必要ナル所爲ヲ實行不許口上犯罪實行ノ當時ニ於テ之ヲ妨クヘ
キ事實ノ存在セラムトモ必要事女體失荷也其所爲ニ依リ此世襲ノ事件ハ公
ヲ先シタル以上ハ其所爲カ犯罪構成ノ要件タル積極的少實行存爲チルト犯
行爲ノ實行ニ對シ消極的ノ作用タル妨害排除ノ行為ナル外に論ナシ其犯却ハ
實行ニ干與シタルモノトス而アラニ開テ人道人道屋内ニ於テ財物竊取ノ行爲ヲ實行スル
ニ當リ他フ一人カ外部ヲ妨害ニ補シム爲ニ屋外ニ在リテ見張明治三十六年十一月二十日第一回第三回
ノ實行ヲ達ツタル少事實ナシニ於シ無窮鑑識ニ看キ實行室犯シテノ猶甚
ノ制裁ニ服從セラムカラウム物論ナリ明治三十五年十月二三日第二回第三回
本題宣傳明治三十五年十月二三日第二回第三回
合併報道出題 誓辭ニ提ヒ御臺前ハ命令でリスハニシニ

八二 通信事務員ノ竊取 明治三十五年十一月二十日第一回第三回
郵便電信局ノ通信事務員ハ雇員ニシテ官吏ニ非
ス隨小苦難守明治三十五年十一月二十日第一回第三回
法篤盜ノ例ニ照シ一等ヲ加ヘ處断ス明治三十五年十一月二十日第一回第三回
ノニ非明治三十五年十一月二十日第一回第三回
八三 監視人訊問記明治三十五年十一月二十日第一回第三回
決定ト裁判所ノ指定公判于テ自ラ證人又ハ参考
人ヲ訊問フ爲テ斯他ニ監視シテ之ヲ訊問爲サシムル決定ヲ爲スニ當リテハ
必ス其獨斷明治三十五年十一月二十日第一回第三回
○人事委託書明治三十五年十一月二十日第一回第三回
主幹會一員十萬圓附取付印明治三十五年十一月二十日第一回第三回
○執罰八回案控訴審於被取下文タク私訴以提起卷之二審第ニ審決了事明治三十五年十一月二十日第一回第三回
何時ニテモ之ヲ爲コトヲ得タルモノナレハ控訴中一旦之ヲ取下クルモ前訴
既成相赤済ナムオカモ之ヲ認拂ス明治三十五年十一月二十日第一回第三回
○不動十六年十一月二十日第一回
○公證第三回
○海大法律學會聯合懇賛大討論會開ハ和佛法學會ハ併為五大法律學校聯
合懇賛大討論會十四年是十九日午後一時より本校西門前集出題者富井博士會長

會場著者歌山寧士原典士等ニ對子往ニ當ラル事並其問題左因翻訳富井朝士會長
○社大公鑑事業自衛隊本所會議ア床屋圖書室宣メ數千萬石會員於者對
十車之ノ武道團法天日爲スニ當リ定款ヲ以テ各地ノ支部員若干名フニテ總會ヲ
始祖識者存キヨリ文部總會主代ヘテ其集會ヲ開クトノア、總會有號之
時事ノ大正ニ至り、伊藤、井上、大隈、伊東、井上、大隈、伊東、井上、大隈、伊東、
對論者共本校及北明治、日本各四名法學院三名（名瀬、早稻田、大學生）
運動會ノ爲メ開應抽籤、以カ席順ヲ定メ順次登壇シテ各、其意思ヲ演述シ六時
過キ對論終結ノ告々會長ハ審議ヲ末左ノ五名ニ賞品ヲ授與シ審議會立正
ハ概略的（批評ヲ試ミ且法文ヲ解釋此情極說ヲ可トスル旨ヲ述ヘラシタ）ハ
八三第一等賞（表揚狀）要義（全部獎勵）消極說（鬼九、貞元、和也）個人又ハ發表
八二第二等賞（表揚狀）（高橋氏民法原論）（高橋氏民法原論）（高橋氏民法原論）
老練益、諭、一著、微、實、闡、大、消極說（井上健一郎（明治）
大國第芸學賞（志田氏民法原論）（志田氏民法原論）（志田氏民法原論）
佐々木田彰夫（日立）一著ニ端り採
八二、並賞（表揚狀）（高橋氏民法原論）（高橋氏民法原論）（高橋氏民法原論）
佐々木田彰夫（日立）一著ニ端り採

特別法講義錄

第二號
五月一日
發行

○市制町村制

○戶籍法

○人事訴訟手續法

○供託法

○本課義錄（府縣制郡制（松浦學士）○供託法（塙田學士）○非訟事務手續法（塙田學士）

○不動產登記法（鈴木學士）○競賣法（吾孫子學士）○租稅法（若槻學士）○著作權法（水野博士）

○公證人規則（松岡學士）○執達吏規則（仁井田博士）ヲ掲載ス○毎月一回發行○月謝金十五
銭

五月

和佛法律學校

